

Sun Server X4-2L プロダクトノート、Version 1.3.1

ORACLE®

Part No: E49394-03
2015 年 12 月

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
製品ドキュメントライブラリ	7
フィードバック	7
Sun Server X4-2L プロダクトノート	9
サポートされるハードウェア	9
サポートされるファームウェアのバージョン	10
関連情報	10
サポートされているオペレーティングシステム	10
操作に関する重要な注意点	12
▼ 重要 – 最新の OS 更新、パッチ、ファームウェアをインストールする	13
OS またはソフトウェアアプリケーションのダウンロード	14
リセットに長い時間がかかり、サーバーの電源が切れて再投入される	15
Oracle ILOM で使用できる高度な IP 接続設定	15
▼ Oracle ILOM で高度な IP 接続設定にアクセスする	15
マザーボード構成部品の保守のときにストレージドライブケースを取り外す	17
▼ ストレージドライブケースおよびマザーボード構成部品を取り外す	17
▼ ストレージドライブケースおよびマザーボード構成部品を交換する	19
Oracle Solaris 10 1/13 では、BIOS 設定ユーティリティの「IO」メニューで 「PCI Subsystem Settings」オプションを有効にすることはサポートされない	20
シングルプロセッサからデュアルプロセッサへのアップグレードはサポートされ ない	20
システムの最新ソフトウェアリリースへの更新	21
組み込み Oracle System Assistant USB フラッシュドライブの上書き回避	21
Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ	22
インストール済みの Oracle VM Server と Oracle VM Manager の互換性要 件	22
サポートされるオペレーティングシステムの制限	23
HBA ファームウェア更新による UEFI BIOS のサポート	24
64 ビット Linux オペレーティングシステムが稼働しているサーバーで segfault が発生する可能性がある	25

ファンモジュールの取り外しと交換を 20 秒以内で行う	25
1 台のサーバーファンモジュールの障害によるパフォーマンス低下	26
Ethernet ポートへの MAC アドレスマッピング	26
Oracle Solaris を使用するときの背面にマウントされた HDD の命名	26
HDD を取り付ける前の 3.5 インチ HDD 固定部品でのアースストラップの検査	27
バッテリーモジュール	28
UEFI BIOS 構成の動作の変更	29
サーバー管理ツール	30
サポートされる PCIe カード	31
解決済みの問題	33
回復 ISO ファイルの使用時に、サポートされていないハードウェアデバイスに関するエラーが表示される	33
InfiniBand PCIe カードを Oracle UEK2 で使用する場合、BIOS オプション VT-d と SR-IOV が有効化されていて、かつカーネルブート引数 <code>intel_iommu</code> が on に設定されていると、IPoIB のスループットが低下する	34
GRUB ブートローダーがシステム内の最初の 8 台のハードドライブからしかブートできない	34
StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex HBA カードは、Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムではサポートされない	37
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4 で Oracle Server Hardware Management Agent が正常に起動されない	37
サーバーの初回リリース時に顧客が 32G バイトの LRDIMM を注文することはできません	38
Oracle Solaris 10 1/13 オペレーティングシステムで Oracle ILOM リモートコンソールを使用すると、システムがハングアップ状態となり、キーボード入力を受け入れなくなる	38
未解決の問題	39
ハードウェアの未解決の問題	40
Oracle System Assistant の未解決の問題	47
Oracle Solaris オペレーティングシステムの未解決の問題	52
Linux オペレーティングシステムおよび仮想マシンの未解決の問題	55
▼ BugDB 18271022 の回避方法	66
Windows オペレーティングシステムの未解決の問題	69
ドキュメントの未解決の問題	70

このドキュメントの使用方法

- **概要:**『Sun Server X4-2L プロダクトノート』では、Sun Server X4-2L でサポートされるソフトウェアとファームウェア、および操作に関する重要なガイドラインについて説明しています。このドキュメントには、サーバーに関する既知の未解決の問題および解決済みの問題も含まれています。
- **対象読者:**これらのプロダクトノートは、システム管理者、ネットワーク管理者、および保守技術者を対象としています。
- **必要な知識:**サーバーシステムに関して高い知識を持つユーザーを対象としています。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs> で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

Sun Server X4-2L プロダクトノート

サーバーに関する最新情報については、サーバーのドキュメントライブラリ <http://www.oracle.com/goto/x4-2l/docs> で入手できます。

このドキュメントでは、次の情報について説明します。

説明	リンク
サポートされるハードウェアの確認	9 ページの「サポートされるハードウェア」
サポートされるファームウェアのリビジョンの一覧	10 ページの「サポートされるファームウェアのバージョン」
サポートされているオペレーティングシステムの一覧	10 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」
操作に関する重要な注意点のリスト	12 ページの「操作に関する重要な注意点」
サポートされる Oracle のサーバー管理ツールの確認	30 ページの「サーバー管理ツール」
サポートされる PCIe カードの一覧。	31 ページの「サポートされる PCIe カード」
解決済みの問題の一覧	33 ページの「解決済みの問題」
未解決の問題の一覧	39 ページの「未解決の問題」

サポートされるハードウェア

サポートされるハードウェアに関する詳細情報については、次の Sun Server X4-2L ドキュメントを参照してください。

- 『Sun Server X4-2L 設置ガイド』の「サーバーの機能とコンポーネント」
- 『Sun Server X4-2L サービスマニュアル』の「Sun Server X4-2L について」

これらのドキュメント内で、次のコンポーネントおよびその他のコンポーネントに関するサポートされるハードウェアの情報を入手できます。

- プロセッサ
- メモリー
- ストレージドライブ
- ホストバスアダプタ

関連情報

- [31 ページの「サポートされる PCIe カード」](#)

サポートされるファームウェアのバージョン

サーバーファームウェアのバージョンは、未解決の問題を修正するために必要に応じて更新されるため、サポートされているファームウェアバージョンは時間とともに変化します。

サポートされるファームウェアバージョンに関する最新情報については、Oracle System Assistant の ReadMe ファイルを参照してください。ReadMe ファイルにアクセスするには、「Oracle System Assistant System Overview」ページで「Help」ボタンをクリックしてから、「Release Notes」をクリックします。ReadMe ファイルに最新のファームウェアバージョンの情報が確実に含まれるようにするには、サーバーに使用可能な最新のソフトウェアリリースで Oracle System Assistant を更新します。

ReadMe ファイルは、My Oracle Support Web サイトから最上位の ReadMe としてもアクセスできます (My Oracle Support からダウンロードする任意のサーバーソフトウェアパッケージに含まれています)。ダウンロード手順については、『Sun Server X4-2L 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

My Oracle Support にアクセスするには、<https://support.oracle.com> に移動します

関連情報

- [13 ページの「重要 – 最新の OS 更新、パッチ、ファームウェアをインストールする」](#)

サポートされているオペレーティングシステム

次のハードウェア互換性リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムのバージョンが示されています。Sun Server X4-2L でサポートされる最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。

- Oracle Solaris — <http://www.oracle.com/webfolder/technetwork/hcl/index.html>
- Oracle Linux — <http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>
- Oracle VM — <http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>
- Windows — <https://www.windowsservercatalog.com/>
- VMware ESXi — <http://www.vmware.com/resources/compatibility/search.php>
- Red Hat Enterprise Linux — <https://access.redhat.com/ecosystem>

- SUSE Linux Enterprise Server — <https://www.suse.com/yessearch/Search.jsp>

次の表に、サポートされているオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアの一覧を示します。サポートされるオペレーティングシステムおよびソフトウェアは、リリースごとに蓄積されます。つまり、新しいソフトウェアリリースには以前のソフトウェアリリースのすべてのコンポーネントが含まれます。

プラットフォームソフトウェアリリース	サポートされているオペレーティングシステム
1.3.1	サポートされているオペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアに変更はありません。
1.3	サポートされているオペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアに変更はありません。
1.2	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 1/13 ■ Oracle Solaris 11.1 および 11.2 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux を含む Oracle Linux 6.3 for x86 (64 ビット) ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 5.9、5.10、および 6.4 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 6.5 および 7.0 ■ Oracle VM 3.2 および 3.3 ■ Red Hat Enterprise Linux 5.9、5.10、6.4、6.5、および 7.0 for x86 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3 (64 ビット) ■ VMware ESXi 5.0 Update 2 および Update 3、5.1 Update 1 および Update 2、5.5、および 5.5 Update 1 ■ Windows Server 2008 SP2 ■ Windows Server 2008 R2 SP1 ■ Windows Server 2012 ■ Windows Server 2012 R2
1.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 1/13 ■ Oracle Solaris 11.1 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux を含む Oracle Linux 6.3 for x86 (64 ビット) ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 5.9、5.10、および 6.4 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 6.5 ■ Oracle VM 3.2 ■ Red Hat Enterprise Linux 5.9、5.10、6.4、および 6.5 for x86 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3 (64 ビット) ■ VMware ESXi 5.0 Update 2 および Update 3、5.1 Update 1、および 5.5 ■ Windows Server 2008 SP2 ■ Windows Server 2008 R2 SP1 ■ Windows Server 2012 ■ Windows Server 2012 R2
1.0.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 1/13 ■ Oracle Solaris 11.1

プラットフォームソフトウェアリリース	サポートされているオペレーティングシステム
	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux を含む Oracle Linux 6.3 for x86 (64 ビット) ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 5.9 および 6.4 ■ Oracle VM 3.2 ■ Red Hat Enterprise Linux 5.9 および 6.4 for x86 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3 (64 ビット) ■ VMware ESXi 5.0 Update 2 および 5.1 Update 1 ■ Windows Server 2008 SP2 ■ Windows Server 2008 R2 SP1 ■ Windows Server 2012
1.0	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 1/13 ■ Oracle Solaris 11.1 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux を含む Oracle Linux 6.3 for x86 (64 ビット) ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 5.9 および 6.4 ■ Oracle VM 3.2 ■ Red Hat Enterprise Linux 5.9 および 6.4 for x86 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 (64 ビット) ■ VMware ESXi 5.0 Update 2 および 5.1 Update 1 ■ Windows Server 2008 SP2 ■ Windows Server 2008 R2 SP1 ■ Windows Server 2012

関連情報

- [22 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ」](#)
- [22 ページの「インストール済みの Oracle VM Server と Oracle VM Manager の互換性要件」](#)
- [23 ページの「サポートされるオペレーティングシステムの制限」](#)

操作に関する重要な注意点

このセクションでは、Sun Server X4-2L の操作に関する重要な情報および要件について説明します。

- [13 ページの「重要 – 最新の OS 更新、パッチ、ファームウェアをインストールする」](#)
- [14 ページの「OS またはソフトウェアアプリケーションのダウンロード」](#)
- [15 ページの「リセットに長い時間がかかり、サーバーの電源が切れて再投入される」](#)
- [15 ページの「Oracle ILOM で使用できる高度な IP 接続設定」](#)

- 17 ページの「マザーボード構成部品の保守のときにストレージドライブケースを取り外す」
- 20 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 では、BIOS 設定ユーティリティの「IO」メニューで「PCI Subsystem Settings」オプションを有効にすることはサポートされない」
- 20 ページの「シングルプロセッサからデュアルプロセッサへのアップグレードはサポートされない」
- 21 ページの「システムの最新ソフトウェアリリースへの更新」
- 21 ページの「組み込み Oracle System Assistant USB フラッシュドライブの上書き回避」
- 22 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ」
- 22 ページの「インストール済みの Oracle VM Server と Oracle VM Manager の互換性要件」
- 23 ページの「サポートされるオペレーティングシステムの制限」
- 24 ページの「HBA ファームウェア更新による UEFI BIOS のサポート」
- 25 ページの「64 ビット Linux オペレーティングシステムが稼働しているサーバーで segfault が発生する可能性がある」
- 25 ページの「ファンモジュールの取り外しと交換を 20 秒以内で行う」
- 26 ページの「1 台のサーバーファンモジュールの障害によるパフォーマンス低下」
- 26 ページの「Ethernet ポートへの MAC アドレスマッピング」
- 26 ページの「Oracle Solaris を使用するときの背面にマウントされた HDD の命名」
- 27 ページの「HDD を取り付ける前の 3.5 インチ HDD 固定部品でのアースストラップの検査」
- 28 ページの「バッテリーモジュール」
- 29 ページの「UEFI BIOS 構成の動作の変更」

関連情報

- 39 ページの「未解決の問題」

▼ 重要 – 最新の OS 更新、パッチ、ファームウェアをインストールする

システムソフトウェアリリース 1.3.1 はシステムファームウェアバージョン 3.2.4.48.a に関連付けられています。新しいシステムファームウェアバージョンは、大きい番号が使用されるか、または文字が追加されます。たとえば、3.2.4.49 は 3.2.4.48.a よりもあとのバージョンです。

一部の製品機能は、パッチおよびファームウェアの最新バージョンがインストールされているときにのみ有効になります。最適なシステムパフォーマンス、セキュリティ、および安定性を確保するには、最新のオペレーティングシステム (OS) の更新、パッチ、およびファームウェアバー

ジョンをインストールする必要があります。詳細は、『Sun Server X4-2L 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

システムにインストールされているファームウェアバージョンを確認するには:

1. **Sun Server X4-2L プロダクトノート (このドキュメント) を確認します。**
このドキュメントでは、重要な製品の依存関係および最新情報について説明します。**10 ページの「サポートされるファームウェアのバージョン」**を参照してください。
2. **Oracle ILOM を使用してシステムファームウェアバージョンを確認します。**
システムファームウェアバージョンを確認するには、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェース (CLI) を使用できます。
 - Web インタフェースの場合、「System Information」->「Summary」をクリックし、「General Information」表の「System Firmware Version」のプロパティ値を表示します。
 - CLI の場合、コマンドプロンプト (>) で `show /system` と入力します
 - ファームウェアのバージョンが、上記の最小限必要なバージョンか、使用可能な場合はその後続リリースであることを確認します。
3. 必要に応じて、次の **My Oracle Support** から入手可能な最新のソフトウェアリリースバージョンをダウンロードします。

<https://support.oracle.com>

ソフトウェアリリースは、サーバーで使用できる最新のファームウェア、ソフトウェア、ハードウェアドライバ、ツール、およびユーティリティを含む、ダウンロード可能なファイル (パッチ) のセットです。

4. 必要に応じて、サーバーのファームウェアを更新します。

Oracle Hardware Management Pack 内の `fwupdate` CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。詳細は、次の Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/ohmp/docs>

OS またはソフトウェアアプリケーションのダウンロード

ライセンスされたすべての Oracle 製品のオペレーティングシステム (OS) またはソフトウェアアプリケーションを、Oracle Software Delivery Cloud (以前は Oracle eDelivery と呼ばれていました) からダウンロードできます。ソフトウェアは、zip および ISO 形式で使用でき、これをそれぞれ

解凍するか、または DVD に書き込むことができます。Oracle Technology Network (OTN) 上のすべてのダウンロードリンクは Software Delivery Cloud を指していて、このサイトをすべての Oracle ダウンロードの信頼できるソースにしています。71 ページの「物理メディアのリクエストがサポートされなくなった」も参照してください。Oracle Software Delivery Cloud にアクセスするには、<https://edelivery.oracle.com> を参照してください

リセットに長い時間がかかり、サーバーの電源が切れて再投入される

保留中の BIOS アップグレードがある場合、ルーチンのリセットが予期したより長くなり、サーバーの電源を切ってリポートする動作が複数回行われます。BIOS ファームウェアをアップグレードするためにはサーバーの電源を切って再投入することが必要であり、これは予期された動作です。アップグレードに FPGA 更新が含まれている場合は、完了するまでに 26 分かかることがあります。

次の条件の両方が当てはまる場合には、保留中の BIOS アップグレードが存在します。

- Oracle ILOM を使用して BIOS およびサービスプロセッサのファームウェアを更新します。
- BIOS アップグレードを延期するオプションを選択します。



注意 - データの破損とシステムの停止時間。ファームウェアのアップグレードプロセスを中断すると、ファームウェアが壊れて、サーバーが操作不可能になることがあります。アップグレードを中断しないでください。プロセスが終了するまで待ってください。

詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』の「BIOS およびサービスプロセッサのファームウェアを更新する (Oracle ILOM)」を参照してください。

Oracle ILOM で使用できる高度な IP 接続設定

ソフトウェアリリース 1.3.1 では、Oracle ILOM は、IPv4 および IPv6 ネットワーク接続の状態プロパティを個別に有効または無効にする機能をサポートしています。さらに、新しい静的 IPv6 ゲートウェイのプロパティを構成に使用できます。

▼ Oracle ILOM で高度な IP 接続設定にアクセスする

Oracle ILOM でこれらの高度なネットワーク設定にアクセスするには、次の手順を参照してください。

1. Oracle ILOM に管理者としてログインします。

Oracle ILOM を CLI または Web インタフェースから起動する方法の手順については、『*Sun Server X4-2L 設置ガイド*』を参照してください。

2. SP のネットワーク設定を変更するには、次のいずれかを実行します。

- Web インタフェースから、これらの手順を実行します。
 - a. 「ILOM Administration」->「Connectivity」->「Network」をクリックします。
 - b. 必要に応じて「Network Settings」ページの設定を変更します。
「Network Setting」ページでプロパティを構成する方法の詳細については、*More Details* リンクをクリックしてください。
 - c. 「Save」をクリックして Oracle ILOM でのネットワークプロパティの変更を保存します。

注記 - IP ネットワークプロパティの変更を保存すると、SP 上のすべてのユーザーセッションが終了します。Oracle ILOM にログインし直すには、新しく割り当てられたサービスプロセッサの IP アドレスを使用します。

- CLI インタフェースから、これらの手順を実行します。
 - a. SP に割り当てられている IPv4 および IPv6 ネットワーク設定を表示するには、次の手順を実行します。
IPv4 の場合、`show /SP/network` と入力します
IPv6 の場合、`show /SP/network/ipv6` と入力します
 - b. IPv4 および IPv6 の各ネットワークプロパティの説明を表示するには、次の手順を実行します。
IPv4 の場合、`help /SP/network` と入力します
IPv6 の場合、`help /SP/network/ipv6` と入力します
 - c. SP 上の IPv4 および IPv6 ネットワークプロパティを変更するには、`set` コマンドを発行します。
IPv4 の例:

```
set /SP/network state=enabled|disabled pendingipdiscovery=static|dhcp  
pendingipaddress=value pendingipgateway=value pendingipnetmask=value
```


IPv6 の例:

```
set /SP/network/ipv6 state=enabled|disabled pending_staticipaddress= value|subnet_mask_value
pending_static_ipgatewayaddress=value
```

注記 - 二重スタックネットワーク接続は、IPv4 と IPv6 両方の状態プロパティが有効に設定されている場合に有効になります。デフォルトでは、サーバーに付属する Oracle ILOM 構成では、デュアルスタック (IPv4 および IPv6) ネットワーク接続が有効になったネットワーク設定になっています。IPv4 の状態プロパティが有効 (/SP/network state=enabled) で、IPv6 の状態プロパティが無効 (/sp/network/ipv6 state=disabled) になっている場合、Oracle ILOM は IPv4 専用のネットワーク接続をサポートします。

- d. Oracle ILOM で保留中の IPv4 および IPv6 のネットワーク変更を確定するには、次のように入力します。

```
set /SP/network commitpending=true
```

注記 - IP ネットワークプロパティの変更を確定すると、SP 上のすべてのユーザーセッションが終了します。Oracle ILOM にログインし直すには、新しく割り当てられたサービスプロセッサの IP アドレスを使用します。

マザーボード構成部品の保守のときにストレージドライブケースを取り外す

『Sun Server X4-2L サービスマニュアル』では、「マザーボード構成部品の保守」で取り外しおよび取り付けの手順にストレージドライブケースの取り外し手順が含まれていません。Sun Server X4-2L のシャーシの右側にケーブル固定クリップがある場合は、マザーボード構成部品を取り外す前にストレージドライブケースを取り外す必要があります。ストレージドライブケースの取り外しにより、ドライブの方を向いたときにシャーシの右側にある 1 つのクリップをクリアするのに十分遠くまでマザーボード構成部品をスライドできるようになります。マザーボード構成部品を再度取り付けるには、ストレージドライブケースを交換する必要があります。

▼ ストレージドライブケースおよびマザーボード構成部品を取り外す

この手順を実行するときは、http://docs.oracle.com/cd/E36974_01/pdf/E38158.pdf にある『Sun Server X4-2L サービスマニュアル』を参照してください。

ストレージドライブケースおよびマザーボード構成部品を取り外すには、これらの手順に従います。

1. サービスマニュアルの 144 ページにある手順「マザーボード構成部品を取り外す」を参照してください。

これらの手順を実行する前に、この手順についてサービスマニュアルに記載されているすべての注意を読みます。

2. サービスマニュアルの手順「マザーボード構成部品を取り外す」の手順 1 から手順 6 を完了します。
3. すべてのストレージドライブをストレージドライブケースから取り外します。
サービスマニュアル 49 ページの手順「ストレージドライブを取り外す」を参照してください。
4. ストレージドライブバックプレーンからケーブルを取り外します。
ディスクバックプレーン LED ケーブル、SAS/SATA ケーブル、電源ケーブル、および DVD 電源ケーブル (8 ドライブシステムのみ) を外します。
 - 8 ドライブおよび 12 ドライブシステムの場合は、サービスマニュアル 119 ページの手順「8 ドライブおよび 12 ドライブシステム用のストレージドライブバックプレーンを取り外す」の手順 3 を参照してください。
 - 24 ドライブシステムの場合は、サービスマニュアル 123 ページの手順「24 ドライブシステム用のストレージドライブバックプレーンを取り外す」の手順 3 を参照してください。
5. サーバーのストレージドライブ構成に応じて、次のいずれかを実行します。
 - サーバーが 24 台の 2.5 インチドライブで構成されている場合は、ディスクケース構成部品を取り外します。
 - a. サーバーのファン構成部品ドアを取り外します。
サービスマニュアル 44 ページの手順「2.5 インチドライブ搭載のサーバーからファン構成部品ドアを取り外す」を参照してください。
 - b. ストレージドライブケースをサーバーシャーシに固定している 4 つの 2 番のプラスねじ (シャーシの両側に 2 つずつ) を取り外します。
4 つのねじはなくさないでください。ストレージドライブケースおよびマザーボード構成部品を交換するときが必要になります。
 - サーバーが 12 台の 3.5 インチドライブまたは 8 台の 2.5 インチドライブで構成されている場合は、ディスクケース構成部品を取り外します。
 - a. ストレージドライブケースをサーバーシャーシに固定している 6 つの 2 番のプラスねじ (シャーシの両側に 3 つずつ) を取り外します。
6 つのねじはなくさないでください。ストレージドライブケースおよびマザーボード構成部品を交換するときが必要になります。
6. ストレージドライブケースを前方にスライドさせ、シャーシの基部にある支持具を外し、ストレージドライブケースを前方にいないに持ち上げて、シャーシから取り外します。

7. シャーシの右側にある 1 つのクリップをクリアするのに十分遠くまでマザーボード構成部品を前方にスライドさせ、マザーボード構成部品を持ち上げて、シャーシから取り外します。
サービスマニュアルの 144 ページにある手順「マザーボード構成部品を取り外す」の手順 7 を参照してください。
8. 『Sun Server X4-2L サービスマニュアル』の 144 ページにある手順「マザーボード構成部品を取り外す」の手順 8 に進み、マザーボードの取り外し手順を完了します。

▼ ストレージドライブケースおよびマザーボード構成部品を交換する

この手順を実行するときは、http://docs.oracle.com/cd/E36974_01/pdf/E38158.pdf にある『Sun Server X4-2L サービスマニュアル』を参照してください。

ストレージドライブケースおよびマザーボード構成部品を交換するには、これらの手順に従います。

1. サービスマニュアル 152 ページの手順「マザーボード構成部品を取り付ける」を参照してください。
これらの手順を実行する前に、この手順についてサービスマニュアルに記載されているすべての注意を読みます。
2. マザーボードをシャーシにスライドさせます。マザーボードがシャーシの右側にある 1 つのクリップをクリアしていることを確認します。
サービスマニュアルの 152 ページにあるマザーボード構成部品を取り付ける手順に関する説明の手順 2 を参照してください。マザーボードを右側に傾けて電源装置構成部品に合わせ、マザーボードを水平にしてサーバーシャーシ内に置いたあと、サーバーの後部にスライドさせて支持具にはめ込みます。
3. ディスクケースをシャーシへスライドさせ、ケースの前面に圧力を掛けて、シャーシの基部に支持具が固定されるようにします。
シャーシの底部先端がストレージドライブケースの底部先端の前面スロットに固定されていることを確認します。
4. サーバーのストレージドライブ構成に応じて、次のいずれかを実行します。
 - サーバーが 24 台の 2.5 インチドライブで構成されている場合は、ディスクケース構成部品を交換します。
 - a. ディスクケース構成部品をサーバーシャーシに固定する 4 つの 2 番のプラスねじ (シャーシの両側に 2 つずつ) を交換します。

システムの最新ソフトウェアリリースへの更新

システムを使用する前に、システムを最新のソフトウェアリリースに更新することを強くお勧めします。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

Oracle System Assistant で更新の取得タスクを実行すると、利用可能な最新のシステム BIOS、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)、ファームウェア、およびドライバを Oracle から入手できます。インターネット接続が必要です。「Get Updates」タスクの使用方法に関する手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) から、最新のファームウェアおよびソフトウェアの更新をダウンロードすることもできます。My Oracle Support からファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードする方法については、『Sun Server X4-2L 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

組み込み Oracle System Assistant USB フラッシュドライブの上書き回避

Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを含む Sun Server X4-2L システム (目的は Linux オペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアのインストール) は、ハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が 1 台だけの場合でも、マルチストレージドライブシステムです。Oracle System Assistant USB フラッシュドライブは、インストーラには通常のディスクのように見えます。

オペレーティングシステム (OS) のインストール中に、ディスクパーティションに使用されるデバイスをよく確認せずに、インストーラによって示されるデフォルトのディスクレイアウトを受け入れないでください。デバイスの選択を確認したり修正したりせずに OS インストーラによって提示されたデフォルトのディスクパーティションを受け入れると、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブが上書きされ、その他のシステムソフトウェアの問題が発生する可能性があります。

これは、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) モードでの Oracle Linux 6.x および 7 または Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.x および 7 ベースのインストールで発生する可能性が高くなります。インストーラが、USB フラッシュドライブを有効な EFI システムパーティション (ESP ブートパーティション) として認識し、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを使用して、多くのデフォルトのディスク構成で OS をブートしようとするためです。必ず、ディスクレイアウトを確認できるディスクパーティション分割オプションを選択してください。

- カスタムレイアウトの作成またはデフォルトレイアウトの変更に関する詳細は、https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/6/html/Installation_Guide/s1-diskpartitioning-x86.html を参照してください

- ディスクパーティション分割設定の詳細は、https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/6/html/Installation_Guide/s1-diskpartsetup-x86.html を参照してください

詳細については、ソフトウェアインストールガイドの次のセクションを参照してください。

- Linux オペレーティングシステムについては、『Sun Server X4-2L Linux オペレーティングシステムインストールガイド』の「インストール先のオプション」を参照してください。
- Oracle VM については、『Sun Server X4-2L Oracle VM インストールガイド』の「インストール先のオプション」を参照してください。
- VMware ESXi については、『Sun Server X4-2L VMware ESXi インストールガイド』の「インストール先のオプション」を参照してください。

Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ

Oracle Solaris 10 1/13 をサーバーにインストールしたあとで、次の表に示されているパッチをインストールしてください。

表 1 Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ

必須パッチ	修正済み CR	説明
150179-01	15755801、 15807688	このパッチは、Intel Xeon E5-2600 V2 シリーズプロセッサのサポートを提供します。
150385-01	15786384	このパッチは、hcts conn5_net テスト実行時のシステムハングアップの問題を修正します。
148678-01	16384609	このパッチは、Oracle Solaris オペレーティングシステムブート時のカーネルパニックの問題を修正します。

インストール済みの Oracle VM Server と Oracle VM Manager の互換性要件

システムにインストール済みの Oracle VM Server ソフトウェアを使用する場合は、Oracle VM インフラストラクチャーの管理に使用する Oracle VM Manager のバージョンと互換性があることを確認する必要があります。互換性を確保する必要がある場合は、使用している Oracle VM Server または Oracle VM Manager をアップグレードして、両者のバージョンを一致させてください。

Oracle VM ソフトウェアのアップグレードについては、『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。Oracle VM のドキュメントは次の Web サイトで入手できます。<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>。

サポートされるオペレーティングシステムの制限

このセクションでは、Sun Server X4-2L が 4T バイト (4 TB)、7200 RPM、3.5 インチの SAS ハードディスクドライブ (HDD) を使用して構成されている場合の、サポートされるオペレーティングシステムの制限および推奨事項について説明します。

サーバーの構成に 4T バイトの 3.5 インチ SAS ドライブや背面 2.5 インチドライブが含まれている場合、インストールおよびブートドライブの制限なしに次のオペレーティングシステムを使用できます。より少ない容量の背面 2.5 インチドライブをインストールおよびブートイメージとして使用できます。

- Oracle Linux 5.9 および 5.10
- RHEL 5.9 および 5.10
- Oracle VM 3.x

次の表に、SGX-SAS6-INT-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z ホストバスアダプタ (HBA) を使用してシステムが構成されている場合に、4T バイトのドライブからのブートをサポートする際のオペレーティングシステムの制限および推奨事項を示します。

表 2 4T バイトインストールおよびブートサポートの制限および推奨事項

オペレーティングシステム	SGX-SAS6-INT-Z HBA を使用		SGX-SAS6-R-INT-Z HBA を使用	
	レガシーブート	UEFI ブート	レガシーブート	UEFI ブート
Oracle Solaris 10	2T バイト使用、2T バイト使用不可	適用不可	2T バイト未満の仮想ドライブを使用します	適用不可
Oracle Solaris 11.1 および 11.2	推奨	推奨	推奨	推奨
Oracle Linux 6.3、6.4、および 6.5	2T バイトより小さいブートパーティションを使用します	推奨	2T バイトより小さいブートパーティションを使用します	推奨
RHEL 6.4 および 6.5				
Oracle Linux 5.9 および 5.10	適用不可	適用不可	2T バイトより小さいブートパーティションを使用します	適用不可
RHEL 5.9 および 5.10				
SLES 11 SP2 および SP3	2T バイトより小さいブートパーティションを使用します	推奨	2T バイトより小さいブートパーティションを使用します	推奨
Windows Server 2008 SP2/R2 SP1	2T バイト使用、2T バイト使用不可	推奨	2T バイトより小さい仮想ドライブを使用します (Windows 2008 SP2 では LSI MegaRaid SAS2 ドライバが必要になるが、これは Oracle System Assistant で入手できる)	推奨
Windows Server 2012/2012 R2	2T バイト使用、2T バイト使用不可	推奨	2T バイト未満の仮想ドライブを使用します	推奨
Oracle VM 3.2 および 3.3	適用不可	適用不可	2T バイト未満の仮想ドライブを使用します	適用不可
VMware ESXi 5.0 Update 2 および Update 3	推奨	推奨	推奨	推奨

オペレーティングシステム	SGX-SAS6-INT-Z HBA を使用		SGX-SAS6-R-INT-Z HBA を使用	
	レガシーブート	UEFI ブート	レガシーブート	UEFI ブート
ESXi 5.1 Update 1 および Update 2				
ESXi 5.5 および ESXi 5.5 Update 1				

次の表に、システムの構成に SGX-SAS6-INT-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z ホストバスアダプタ (HBA) が使用されている場合の、4T バイトのブートドライブを使用するインストール済みオペレーティングシステムの制限を示します。

表 3 インストール済みオペレーティングシステムの 4T バイトドライブのサポート

オペレーティングシステム	SGX-SAS6-INT-Z HBA または SGX-SAS6-R-INT-Z HBA を使用	
	レガシーブート	UEFI ブート
Oracle VM 3.x	サポートなし	

HBA ファームウェア更新による UEFI BIOS のサポート

システムと一緒に出荷されないホストバスアダプタ (HBA) カードを使用する場合、UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS がサポートされるように HBA カードのファームウェアを更新しなければいけない可能性があります。更新しなければいけない可能性のある HBA カードは、次のとおりです。

- Sun Storage 6G ビット SAS PCIe HBA 内蔵 (SGX-SAS6-INT-Z)
- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA 外部 (SGX-SAS6-EXT-Z)
- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA 内蔵 (SGX-SAS6-R-INT-Z)
- StorageTek 8 Gb ファイバチャネル PCIe HBA デュアルポート QLogic (SG-XPCIE2FC-QF8-N)
- StorageTek 8 Gb ファイバチャネル PCIe HBA デュアルポート Emulex (SG-XPCIE2FC-EM8-N)
- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、Qlogic (7101674)
- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、Emulex (7101684)

したがって、次のいずれかの文が真の場合、HBA ファームウェアを更新しなければいけない可能性があります。

- 障害のある HBA カードの交換用カードを受け取ります。
- システムとは別個に HBA カードを注文します。

- すでに所有している HBA カードを使用します。

Oracle System Assistant または Oracle Hardware Management Pack を使用して HBA ファームウェアを更新できます。Oracle System Assistant を使って HBA のファームウェアを更新する方法については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) の、ファームウェアの更新に関する手順を参照してください。

注記 - また、Legacy BIOS を使用するようにシステムを構成することもできます。詳細については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) の、レガシー BIOS ブートモードと UEFI BIOS ブートモードの選択に関する手順を参照してください。

64 ビット Linux オペレーティングシステムが稼働しているサーバーで segfault が発生する場合がある

Advanced Vector Extensions (AVX) プロセッサがサポートされ、64 ビット Linux オペレーティングシステムが稼働しているサーバーでは、Oracle Database やその他の Oracle Middleware 製品などのアプリケーションのロード時に、セグメンテーション違反 (segfault) が発生する可能性があります。

これらの予測不能な segfault を回避するには、システム上の glibc パッケージがバージョン glibc-2.12-1.47.0.2.el6_2.12.x86_64 以降であることを確認するようにしてください。

更新済みの glibc パッケージは Oracle Public Yum リポジトリから取得できます。

ファンモジュールの取り外しと交換を 20 秒以内で行う

サーバーのファンモジュールを取り外して交換する場合は、システム内の適切な冷却を維持するために、取り外しと交換の手順全体を 20 秒以内に完了する必要があります。この制限時間を見越して、交換手順を開始する前に交換用のファンモジュールを用意し、新しいファンモジュールを取り付ける準備ができていることを確認します。

ファンモジュールはホットスワップ可能なコンポーネントで、N+1 ファン冗長性があります。Sun Server X4-2 40mm ファンモジュールは、2 枚の完全な逆回転ファンペア (計 4 ロータ) を備えていて、シャーシが 4 つのファンモジュールを保持します。Sun Server X4-2L ファンモジュールは、単一の 80mm 逆回転ファンペア (計 2 ロータ) を使用し、シャーシが 4 つのファンモジュールを保持します。ファンモジュール内の 1 台のファンのみ障害が発生している場合でも、交換のためにファンモジュールを取り外している間は、Oracle ILOM サービスプロセッサでは、4 つのファン (Sun Server X4-2) または 2 つのファン (Sun Server X4-2L) が回転できないものとして検出されます。ファンモジュールの交換にかかる時間が 20 秒を超えた場合、Oracle ILOM

は熱によるシステムの損傷を防ぐために、システムを自動的にシャットダウンします。これは、正常な動作です。

1 台のサーバーファンモジュールの障害によるパフォーマンス低下

1 台のサーバーファンモジュールに障害が発生し、サーバーの動作温度が 30 °C (86 °F) を超過した場合、サーバーのプロセッサのパフォーマンスが低下する可能性があります。

Ethernet ポートへの MAC アドレスマッピング

サーバーの MAC ID (および関連するバーコード) が表示されているシステムシリアルラベルは、Sun Server X4-2L サーバーディスクケースベゼルの上部の左側正面にあります。

この MAC ID (およびバーコード) は、一連の 6 つの連続する MAC アドレスの 16 進 (基数 16) MAC アドレスに対応します。次の表に示すように、これらの 6 つの MAC アドレスはサーバーのネットワークポートに対応します。

ベース MAC アドレス	対応する Ethernet ポート
「ベース」+ 0	NET 0
「ベース」+ 1	NET 1
「ベース」+ 2	NET 2
「ベース」+ 3	NET 3
「ベース」+ 4	SP (NET MGT)
「ベース」+ 5	Network Controller-Sideband Interface (NC-SI) サイドバンド管理が構成されている場合のみ使用されます。

Oracle Solaris を使用するときの背面にマウントされた HDD の命名

Oracle Solaris `croinfo` コマンドを使用して Sun Server X4-2L のハードディスクドライブ (HDD) 情報を表示すると、背面にマウントされたハードディスクドライブ (HDD) は次のように表示されます。

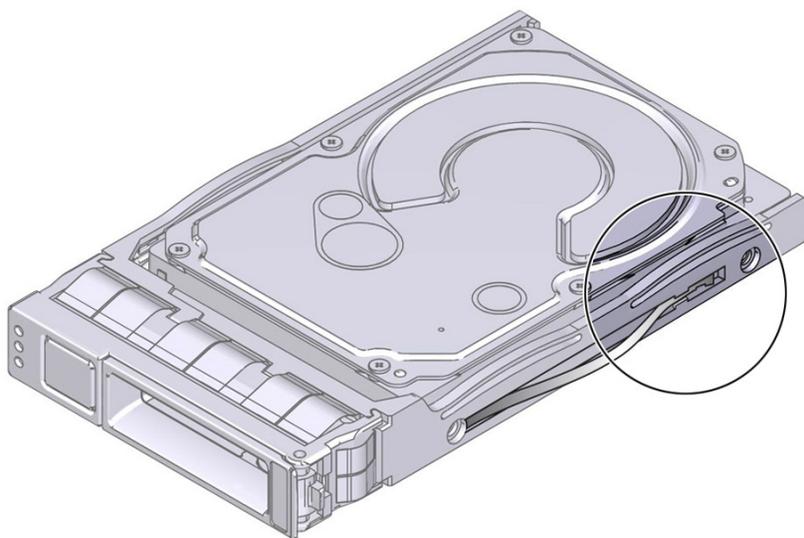
- 12+2 HDD 構成では、背面にマウントされた HDD は HDD12 および HDD13 として表示されます。
- 24+2 HDD 構成では、背面にマウントされた HDD は HDD24 および HDD25 として表示されます。

HDD を取り付ける前の 3.5 インチ HDD 固定部品でのアースストラップの検査

Sun Server X4-2L で使用される 3.5 インチハードディスクドライブ (HDD) 固定部品には、ばね付きの金属製アースストラップが内蔵されており、これは HDD 固定部品の右側にあります。アースストラップのたわみが原因でストラップがサーバーディスクケースに引っかかり、これによってアースストラップがさらに損傷を受けることがあります。損傷を受けると、アースストラップを修復できず、HDD 固定部品を交換する必要があります。

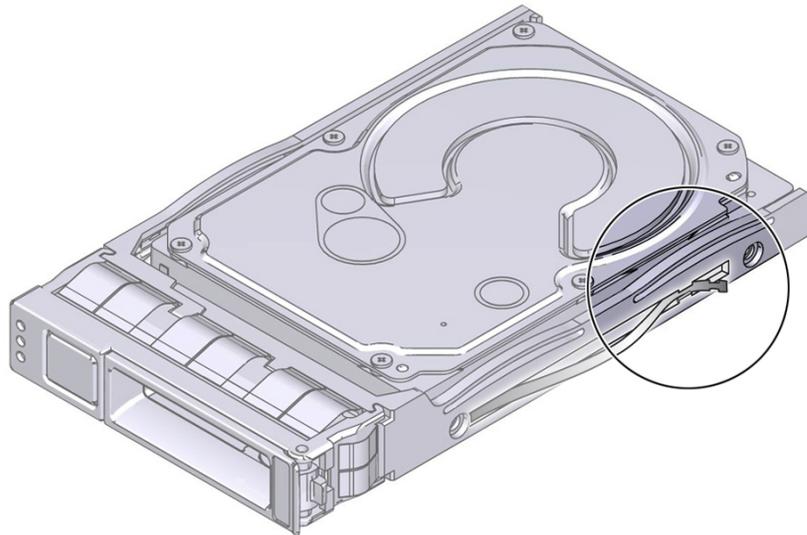
3.5 インチ HDD をシステムに取り付ける前に、アースストラップの外観を調べて、ストラップの終端が HDD 固定部品に正しく固定されていることを確認します。正しく固定されているアースストラップの例については、次の図を参照してください。

図 1 HDD 固定部品に正しく固定されているアースストラップ



アースストラップが正しく固定されていないか、HDD 固定部品の外縁からはみ出ている場合、HDD 固定部品を交換するようにしてください。正しく固定されていないアースストラップの例については、次の図を参照してください。

図 2 HDD 固定部品に正しく固定されていないアースストラップ



バッテリーモジュール

Oracle Engineered Systems では、背面ストレージドライブ 1 に、ホストバスアダプタ (HBA) カード用のリモートバッテリーモジュールが装着されている場合があります。



注意 - バッテリーモジュールは顧客交換可能ユニット (CRU) ではなく、顧客が取り外したり交換したりすることはできません。バッテリーモジュールの取り外しや交換を行えるのは、Oracle 保守担当者だけです。

バッテリーモジュールはホットプラグ対応で、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA である SG-SAS6-R-INT-Z のバックアップ電源サブシステムを提供します。これにより、Oracle 保守担当者は、サーバーの電源を切断しなくても製品寿命の終了時にバッテリーを交換できます。

UEFI BIOS 構成の動作の変更

注記 - サーバプラットフォームソフトウェアの拡張: プラットフォームソフトウェアリリース 1.2 の時点で、「UEFI Configuration Synchronization」オプションは BIOS の「Advanced」メニューから削除されています。そのため、ユーザーは、Oracle ILOM が UEFI 構成を同期するポイントを制御できなくなりました。UEFI 構成の同期はサーバプラットフォームソフトウェアで処理されるようになったため、ユーザーのアクションは必要なくなりました。

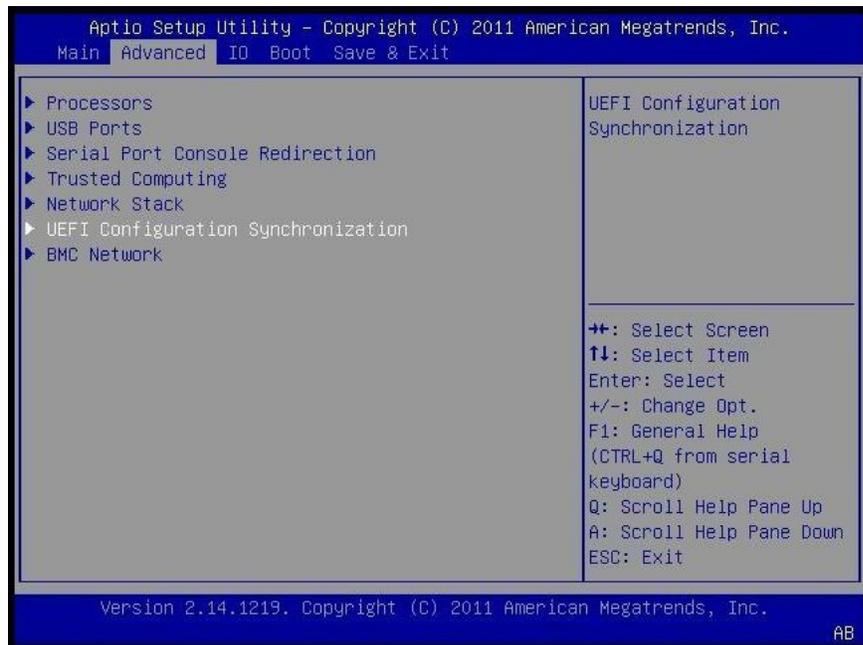
BIOS と Oracle ILOM の間で UEFI 構成を同期させるプロセスが変更され、ユーザーが後期 UEFI 構成同期 (Synchronization Late) を有効化できるようになりました。Synchronization Late を有効にすると、Oracle ILOM は BIOS 構成の同期を、BIOS がホスト OS に制御を渡す直前か、BIOS 設定ユーティリティからの保存および終了後に試みることができます。

Synchronization Late を有効化または無効化する方法は 2 つあります。

- UEFI Config XML ファイル内で新しいノーマルモードの BIOS 設定パラメータを使用します。このパラメータは次の情報を提供します。

```
<UEFI_Configuration_Synchronization>
<!--Synchronization_Late-->
<!--Description: If enabled, Synchronization will occur at the end of post.-->
<!--Possible Values: "Disabled", "Enabled"-->
<Synchronization_Late>Enabled</Synchronization_Late>
```

- Oracle ILOM リモートコンソールにログインするかシステムにモニターを直接接続することで、BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。BIOS 設定ユーティリティで「Advanced」タブをクリックし、下方にスクロールして「UEFI Configuration Synchronization」に移動します。Enter キーを押して「UEFI Configuration Synchronization」メニューを開きます。



Synchronization Late はデフォルトで有効化されています。Enter キーを押して Synchronization Late を有効化または無効化します。保存して BIOS 設定ユーティリティを終了します。

サーバー管理ツール

サーバー向けに単一システム管理ツールが 3 セット存在します。

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM): 詳細は、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> で Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリを参照してください
- Oracle System Assistant: 詳細は、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) で Oracle System Assistant を使用してサーバーを設定する手順を参照してください
- Oracle Hardware Management Pack: 詳細は、<http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください

さらに、データセンターで複数のシステムを管理するために、次のソフトウェアを使用できます。

- Oracle Enterprise Manager Ops Center: 詳細は、<http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html> で製品情報のページを参照してください

サポートされる PCIe カード

このセクションでは、Sun Server X4-2L でサポートされる PCIe カードについて説明します。

次の表に、Sun Server X4-2L でサポートされる PCIe カードの数量およびスロットの制限を示します。「サポートされる最大数量」列は、Oracle がテスト済みでサポートしているカード数を示します。

注記 - シングルプロセッサシステムでは、PCIe スロット 1、2、および 3 は機能しません。デュアルプロセッサシステムのスロット 1 - 5 でサポートされる PCIe カードは、シングルプロセッサシステムのスロット 4 と 5 のみでサポートされます。

表 4 サポートされる PCIe カード、サポートされる数量、およびスロットの制限

PCIe カード	サポートされる最大数量	スロットの制限
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA、内蔵 SGX-SAS6-R-INT-Z (注文可能なオプション) SG-SAS6-R-INT-Z (出荷時の取り付け用)	1	スロット 6 でのみサポートされます。
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA、内蔵 SGX-SAS6-INT-Z (注文可能なオプション) SG-SAS6-INT-Z (出荷時の取り付け用)	1	スロット 6 でのみサポートされます。
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA、外部 SGX-SAS6-EXT-Z (欧州以外の国で注文可能なオプション) 7105387 (欧州の国で注文可能なオプション) SG-SAS6-EXT-Z (出荷時の取り付け用)	4	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート QLogic SG-XPCIE2FC-QF8-N (注文可能なオプション) SG-PCIE2FC-QF8-Z (出荷時の取り付け用)	5	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex SG-XPCIE2FC-EM8-N (注文可能なオプション) SG-PCIE2FC-EM8-Z (出荷時の取り付け用)	5	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、QLogic 7101674 (注文可能なオプション) 7101673 (出荷時の取り付け用)	5	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、Emulex 7101684 (注文可能なオプション) 7101683 (出荷時の取り付け用)	5	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
Sun Storage 16 Gb FC Short Wave Optics、QLogic 7101676 (注文可能なオプション)	5	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。

サポートされる PCIe カード

PCIe カード	サポートされる最大数量	スロットの制限
7101675 (出荷時の取り付け用) 注記 - この PCIe カードは Oracle VM 3.3 でサポートされていますが、このカードは Oracle VM 3.2 ではサポートされません。		
Sun Storage 16 Gb FC Long Wave Optics, QLogic	5	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
7101680 注記 - この PCIe カードは Oracle VM 3.3 でサポートされていますが、このカードは Oracle VM 3.2 ではサポートされません。		
Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics, QLogic	5	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
7101678 (注文可能なオプション)		
7101677 (出荷時の取り付け用) 注記 - この PCIe カードは Oracle VM 3.3 でサポートされていますが、このカードは Oracle VM 3.2 ではサポートされません。		
Sun Storage 16 Gb FC Short Wave Optics, Emulex	5	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
7101686 (注文可能なオプション)		
7101685 (出荷時の取り付け用)		
Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics, Emulex	5	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
7101688 (注文可能なオプション)		
7101687 (出荷時の取り付け用)		
Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャネルアダプタ (PCIExpress Gen 3 用)	4	スロット 1、2、3、および 5 でサポートされます。
7104074 (注文可能なオプション)		
7104073 (出荷時の組み込み用) 注記 - この PCIe カードは Oracle VM 3.3 でサポートされていますが、サポートされる最大数量は 2 です。Oracle VM 3.2、Windows Server、VMware ESXi、および SUSE Linux Enterprise Server は、Oracle Virtual Network でのみサポートされています。		
Sun デュアル 10GbE SFP+ PCIe 2.0 Low Profile アダプタ (Intel 82599 10 ギガビット Ethernet コントローラを内蔵) 1109A-Z (注文可能なオプション) X1109A-Z (出荷時の取り付け用)	4	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
Sun Dual Port GbE PCIe 2.0 Low Profile アダプタ、MMF	4	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
7100481 (注文可能なオプション)		
7100482 (出荷時の取り付け用)		
Sun クアッドポート GbE PCIe 2.0 Low Profile アダプタ、UTP	4	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
7100477 (注文可能なオプション)		
7100479 (出荷時の取り付け用)		

PCIe カード	サポートされる最大数量	スロットの制限
Sun Dual Port 10 GbE PCIe 2.0 Low Profile アダプタ、Base-T 7100488 (注文可能なオプション) 7100563 (出荷時の取り付け用)	4	スロット 1、2、3、4、5 でサポートされます。
Flash Accelerator PCIe F80 カード: 800GB、eMLC 7107092 (注文可能なオプション) 7107091 (出荷時の取り付け用)	4	スロット 1、2、4、および 5 でサポートされます。
注記 - このカードは、UEK2 が搭載された Oracle Linux 5.9 と 6.4、UEK3 が搭載された Oracle Linux 6.5 と 7.0、および Oracle Solaris 10 1/13、11.1、および 11.2 でのみサポートされます。レガシー BIOS ブートモードのみがサポートされ、UEFI ブートモードはサポートされません。		

解決済みの問題

サーバーに関する包括的な情報については、サーバーのドキュメントライブラリ <http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs> で入手できます。

注記 - 該当する場合、次の解決済みの問題の表には、解決済みの問題がバグ ID 番号 (現在の Oracle BugDB バグ追跡システムによって割り当てられた識別番号) と変更リクエスト番号 (前のバグ追跡システムによって割り当てられた識別番号) 別に一覧表示されています。

次のセクションでは、解決済みの問題の一覧と説明を示します。

回復 ISO ファイルの使用時に、サポートされていないハードウェアデバイスに関するエラーが表示される

CR 16590407

問題:

Oracle System Assistant 回復 ISO ファイルのソフトウェアバージョン 1.0 を使用したときに、「UNSUPPORTED HARDWARE DEVICE: CPU family 6 model > 59」というメッセージが表示されます。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1

修正済みの版:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2

InfiniBand PCIe カードを Oracle UEK2 で使用する 場合、BIOS オプション VT-d と SR-IOV が有効化さ れていて、かつカーネルブート引数 `intel_iommu` が `on` に設定されていると、IPoIB のスループットが低下す る

CR 17168826

問題:

PCIExpress Gen 3 PCIe カード用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャネルアダプタ (7104074) を Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 (UEK2) for Linux で使用する場合、BIOS オプション VT-d と SR-IOV が有効化されていて (デフォルト設定)、かつカーネルブート引数 `intel_iommu` が `on` に設定されていると、IPoIB (IP-over-InfiniBand) のスループットが低下します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- PCIExpress Gen 3 PCIe カード用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャネルアダプタ (7104074)
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1

修正済みの版:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2

GRUB ブートローダーがシステム内の最初の 8 台の ハードドライブからしかブートできない

15788976 (以前の CR 7165568)

問題:

一部のバージョンの GRUB ブートローダーは、システム内の最初の 8 台のハードドライブからしかブートできません。オペレーティングシステム (OS) とブートローダーを、オプション ROM が有効になっているホストバスアダプタ (HBA) に接続されているドライブリスト内の 9 番目以降のドライブにインストールできます。ただし、OS のインストール後にシステムをリブートすると、GRUB ブートローダーは GRUB プロンプトでハングアップし、ディスクドライブから OS をロードするためにディスク I/O 操作を実行しません。

影響を受けるソフトウェア:

- Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) モードまたはレガシー (非 UEFI) BIOS モードを使用する Oracle Linux 6.3 および 6.4
- UEFI モードまたはレガシー BIOS モードを使用する Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4
- レガシー BIOS モードを使用する SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 および SP3
- レガシー BIOS モードを使用する Oracle Linux 5.9
- レガシー BIOS モードを使用する RHEL 5.9
- レガシー BIOS モードを使用する Oracle VM 3.2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1
プラットフォームソフトウェアリリース 1.2 で修正されました

前のソフトウェアリリースからの回避方法:

オペレーティングシステムと BIOS 構成に応じて、次のいずれかの解決方法を選択します。

解決方法 1 (すべてのオペレーティングシステムおよびレガシー BIOS または UEFI BIOS 構成のサポート):

1. ディスクドライブを再配列して、オペレーティングシステムとブートローダーをシステム内の最初の 8 台のディスクドライブのうち 1 つに再インストールします。この方法では、BIOS 設定ユーティリティを開始して、システムブートに使用されていないディスクドライブに接続されている HBA のオプション ROM を無効にする必要があることがあります。

BIOS 設定ユーティリティの開始と HBA のオプション ROM 設定の変更については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) の、オプション ROM 設定の構成に関する手順を参照してください。

15788976 (以前の CR 7165568) (続き)

回避方法 2:

解決方法 2 (レガシー BIOS 構成での Oracle Linux 6.3 および 6.4 および RHEL 6.4 のサポート):

この手順では、OS の GRUB RPM を更新するプロセス、およびレスキュー環境からディスクドライブの MBR に GRUB を再インストールするプロセスの詳細を示します。レスキュー環境からの GRUB MBR ブートコードの更新に関する詳細は、https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/6/html/Installation_Guide/ap-rescuemode.html#Rescue_Mode-x86 を参照してください

始める前に、必要に応じて Oracle Linux 6.2 または RHEL 6.2 インストールメディアを入手する必要があります。

1. Oracle Linux 6.3 または 6.4 または RHEL 6.4 インストールブートメディアからシステムをブートします。
2. インストールプロンプトで、`linux rescue` と入力してレスキュー環境を開始します。

3. インストールメディア用のディレクトリを作成します。

```
mkdir /mnt/cd
```

4. インストールメディアをマウントします。

```
mount -o ro /dev/sr0 /mnt/cd
```

```
cp /mnt/cd/Packages/grub-0.97-75*rpm /mnt/sysimage
```

5. ルートパーティションでルート環境の変更を開始します。

```
chroot /mnt/sysimage
```

```
yum localupdate /grub-0.97-75*rpm || rpm -Uvh /grub-0.97-75*rpm
```

6. GRUB ブートローダーを再インストールします。

```
/sbin/grub-install bootpart
```

ここでは、*bootpart* はブートパーティション (通常は /dev/sda) です。

7. /boot/grub/grub.conf ファイルを確認します。GRUB が追加のオペレーティングシステムを制御するには、追加のエントリが必要な場合があります。

8. システムをリブートします。

```
> reset /System
```

15788976 (以前の CR 7165568) (続き)

回避方法 3:

解決方法 3 (UEFI BIOS 構成での Oracle Linux 6.3 および 6.4 および RHEL 6.4 のサポート):

この手順では、レスキュー環境から GRUB RPM を最新バージョンに更新することで `grub.efi` バイナリを更新するプロセスの詳細を示します。レスキュー環境からの GRUB RPM の更新に関する詳細は、https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/6/html/Installation_Guide/ap-rescuemode.html#Rescue_Mode-x86 を参照してください。

始める前に、必要に応じて Oracle Linux 6.3 または 6.4 または RHEL 6.4 インストールメディアを入手する必要があります。

1. 必要に応じて、Oracle Linux 6.2 または RHEL 6.2 インストールブートメディアからシステムをブートします。
2. UEFI ブートローダーメニューで、`linux rescue` と入力してレスキュー環境を開始します。
3. インストールメディアをマウントします。

```
mount -o ro /dev/sr0 /mnt/cd
```

```
cp /mnt/cd/Packages/grub-0.97-75*rpm /mnt/sysimage
```

4. インストールメディア用のディレクトリを作成します。

```
mkdir /mnt/cd
```

5. ルートパーティションでルート環境の変更を開始します。

```
chroot /mnt/sysimage
```

```
yum localupdate /grub-0.97-75*rpm || rpm -Uvh /grub-0.97-75*rpm
```

6. ルート環境を終了します。

```
chroot env
```

7. レスキューモードを終了します。
8. システムをリブートします。

```
> reset /System
```

StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex HBA カードは、Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムではサポートされない

CR: なし

問題:

StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex (SG-PCIE2FC-EM8-Z および SG-XPCIE2FC-EM8-N) ホストバスアダプタ (HBA) カードは、Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムではサポートされません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex (SG-PCIE2FC-EM8-Z および SG-XPCIE2FC-EM8-N)
- Oracle Solaris 11.1
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0 および 1.0.1

修正済みの版:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.1
- Oracle Solaris 11.1.13.6.0

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4 で Oracle Server Hardware Management Agent が正常に起動されない

CR 16975947

問題:

RHEL 6.4 で、Oracle Hardware Management Pack のインストール後に Oracle Server Hardware Management Agent (hwmgmt) が正常に起動されません。サービスが正常に起動せず、ユーザーが Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) を使用して適切なシステム情報を取得できません。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Hardware Management Pack
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0 および 1.0.1

修正済みの版:

- Oracle Hardware Management Pack 2.2.8

サーバーの初回リリース時に顧客が 32G バイトの LRDIMM を注文することはできません

CR: なし

問題:

顧客は、サーバーの初回リリースのあとでしか 32G バイトのメモリーモジュール (LRDIMM) を注文できません。顧客が初回リリース時に注文できる RDIMM は、8G バイトと 16G バイトだけです。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- 32G バイトの LRDIMM
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0

修正済みの版:

- 32G バイトの LRDIMM は、プラットフォームソフトウェアリリース 1.0.1 の時点で注文できます。

Oracle Solaris 10 1/13 オペレーティングシステムで Oracle ILOM リモートコンソールを使用すると、システムがハングアップ状態となり、キーボード入力を受け入れなくなる

CR 16353003

問題:

Oracle Solaris 10 1/13 OS で Oracle ILOM リモートコンソールを使用すると、システムがシャットダウンの最終段階でハングアップ状態になります。「Press any key to reboot」というプロンプト

がリモートコンソールに表示されますが、コンソールはそのメッセージへの応答となるキーボード入力を一切受け入れません。この問題が発生する可能性があるのは、リモートコンソールの eeprom 変数 console が text に設定された状態で次のシステム管理コマンドを入力した場合です。

- sys-unconfig
- init 0
- uadmin 1 0
- uadmin 1 6
- uadmin 2 0
- shutdown -i 0
- halt

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Solaris 10 1/13
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1

修正済みの版:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2

注記 - この問題の修正は、Oracle Solaris 10 Update 11、および SRU 19.6 以降のリリースが適用された Oracle Solaris 11.1 用のパッチ 150401-12 で入手可能です。パッチをダウンロードするには、My Oracle Support の Web サイト (<https://support.oracle.com>) にアクセスします。

未解決の問題

サーバーに関する包括的な情報については、サーバーのドキュメントライブラリ <http://www.oracle.com/goto/X4-21/docs> で入手できます。

未解決の問題はカテゴリ別にグループ化され、次のセクションの表に示されています。

注記 - 未解決の問題の表には、問題がバグ ID 番号 (現在の Oracle BugDB バグ追跡システムによって割り当てられた識別番号) と変更リクエスト番号 (前のバグ追跡システムによって割り当てられた識別番号) 別に一覧表示されています。

- [40 ページの「ハードウェアの未解決の問題」](#)
- [47 ページの「Oracle System Assistant の未解決の問題」](#)
- [52 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムの未解決の問題」](#)
- [55 ページの「Linux オペレーティングシステムおよび仮想マシンの未解決の問題」](#)
- [69 ページの「Windows オペレーティングシステムの未解決の問題」](#)

- [70 ページの「ドキュメントの未解決の問題」](#)

関連情報

- [10 ページの「サポートされるファームウェアのバージョン」](#)
- [12 ページの「操作に関する重要な注意点」](#)

ハードウェアの未解決の問題

MegaRAID マウスポインタが、Oracle ILOM リモートコンソール上で動作しない

15584702 (以前の CR 6875309)

問題:

Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA 内蔵オプションカードを取り付け済みのサーバーで、Oracle ILOM リモートコンソール (マウスモードを「Absolute」に設定) を使用している場合、システムをブートして Ctrl + H キーを押し、LSI MegaRAID BIOS Utility を起動すると、ユーティリティーの左上部でマウスポインタが水平および垂直方向にのみ移動します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA 内蔵 (SGX-SAS6-R-INT-Z および SG-SAS6-R-INT-Z)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Oracle ILOM リモートコンソールで、マウスモード設定を Absolute (デフォルト) から Relative モードに変更します。

Oracle ILOM リモートコンソールの設定を Relative モードに設定する手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle ILOM 3.2 ドキュメントライブラリを参照してください。

UEFI BIOS モードとレガシー BIOS モードの切り替え時に UEFI 構成設定が失われることがある

15736328 (以前の CR 7080526)

問題:

UEFI BIOS とレガシー BIOS モードの切り替え時に、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) ブート優先順位リストの設定が失われることがあります。この問題は、レガシー BIOS モードでのみ動作する Pc-Check ユーティリティを使用してシステム診断を実行することが必要な場合に発生することがあります。UEFI BIOS とレガシー BIOS を切り替える前に、UEFI 構成設定を保存するようにしてください。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

BIOS モードを切り替える前に、Oracle ILOM BIOS 構成のバックアップおよび復元機能を使用して構成設定を保存します。次に、UEFI モードに戻したあとで、BIOS 構成設定を復元します。UEFI 構成設定の保存に関する情報および手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリで、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイドファームウェアリリース 3.2.x』を参照してください。

BIOS が、サーバーに直接接続されている USB キーボードまたはマウス、あるいはその両方に応答しないことがある

15735895 (以前の CR 7079855)

問題:

まれに、USB キーボード/マウスがホストに直接接続されているときに、BIOS がキーボードまたはマウス、あるいはその両方を認識しないことがあります。この問題が見られるのは、BIOS スプラッシュ画面の表示中に BIOS がキーの押下に応答しない場合です。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

ホストをリブートします。システムを 2 回または 3 回リブートしても問題が解決しない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

Oracle ILOM BIOS 構成のバックアップおよび復元機能によって「Partial Restore」ステータスが報告されるべきではない

15790853 (以前の CR 7167796)

問題:

Oracle ILOM Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) BIOS 構成がロードされる時はいつも、構成ファイルに非アクティブパラメータ (BIOS の現バージョンでは無効になっているパラメータ) または入力ミスが含まれていることがあります。結果として、1 つ以上のパラメータのロードに失敗することがあります。これが発生すると、Oracle ILOM の `/System/BIOS/Config/restore_status` パラメータ (最後に試行された構成ファイルロードのステータスを保持している) によって、ロードが一部正常に行われたとして報告されます。`/System/BIOS/Config/restore_status` パラメータの値は、Oracle ILOM UEFI BIOS 構成ファイルが次回ロードされるまで変更されません。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle ILOM 3.1 および 3.2.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

1. テキストエディタを使用して、次のような内容の XML ファイルを作成します。

```
<BIOS>
```

```
</BIOS>
```

2. ファイルを任意の XML ファイル名で保存します。

この例で使用したファイル名は `bios_no_op_config.xml` です

3. 構成をロードするには、次の Oracle ILOM コマンドを入力します。

```
% load -source <URL location>/bios_no_op_config.xml /System/BIOS/Config
```

4. ホストの電源が入っている場合は、次のコマンドを入力してホストをリセットします。

```
% reset /System
```

Emulex HBA: 「Scan Fibre Devices」が最初に実行されていない場合、UEFI の「Add Boot Device」を起動するとハングアップする

15785186 (以前の CR 7160984)

問題:

注記 - この問題は、UEFIBoot バージョン 4.12a.15 ファームウェアを実行している Emulex HBA のみで発生します。別のバージョンの HBA ファームウェアを実行している場合、この問題は発生しません。

「Set Boot From San」が「enabled」に設定されている Emulex ホストバスアダプタ (HBA) の「UEFI Driver control HII」メニューで、「Add Boot Device」機能を実行すると、「Please Wait」メツ

セージが約 3 - 5 秒間表示されて、システムがハングアップします。状態をクリアするには、サーバーをリセットする必要があります。

ただし、最初に「Scan Fibre Devices」機能を実行してから、「Add Boot Device」機能を実行した場合、「Add Boot Device」機能は正しく動作します。ハングアップ状態は、「Add Boot Device」機能を最初に実行した場合のみ発生します。

影響を受けるソフトウェア:

- EFIBoot バージョン 4.12a.15 ファームウェアが適用された Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex (SG-PCIE2FC-EM8-Z および SG-XPCIE2FC-EM8-N)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

このハングアップ状態から回復するには、次のコマンドを入力してサーバーをリセットします。

```
> reset /System
```

シングルプロセッサシステムでは、一部の Oracle ILOM Web インタフェースの「System Information」画面に表示される使用可能な Ethernet ポートと PCIe ポートの数が正しくない

15803551、15803553 (以前の CR (7183782、7183789))

問題:

シングルプロセッサシステムでは、Ethernet ポート NET 2 および NET 3 と PCIe スロット 1、2、3 はサポートされません。ただし、次の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web インタフェース画面には、次のポートが誤って使用可能として表示されます。

- ILOM の「System Information」->「Summary」画面および「System Information」->「Networking」画面には、実際には 2 つの Ethernet NIC (NET 0 および NET 1) のみがサポートされ、使用可能なときに、サポートされる Ethernet NIC (ネットワークインタフェースコントローラ) の数が 4 と表示されます。
- Oracle ILOM の「System Information」->「PCI Devices」画面には、実際には 3 つの PCIe スロット (スロット 4、5、および 6) のみがサポートされ使用可能なときに、「Maximum Add-on Devices」が 6 と表示されます。また、この画面には、実際には NET 0 および NET 1 のみがサポートされ、使用可能なときに、オンボードデバイス (NIC) の数が 4 と表示されます。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- シングルプロセッサシステム
- Oracle ILOM 3.1 および 3.2.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

なし。

シングルプロセッサシステムでは、一部の Oracle ILOM CLI コマンドと Web インタフェースの「System Information」画面に表示されるサポートされる DIMM ソケットの数が正しくない

15803564 (以前の CR 7183799)

問題:

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) コマンド行インタフェース (CLI) では、シングルプロセッサシステムでサポートされる DIMM の最大数が 8 のときに、`show /System/memory` コマンドは誤って `max DIMMs = 16` を返します。

さらに、DIMM がプロセッサ 1 (P1) ソケットに関連付けられたソケットに誤って取り付けられている場合に、P1 が実際にはシステムに存在しなくても、次の Oracle ILOM CLI コマンドは、P1 に関連付けられた DIMM を示して誤った構成を識別します。ただし、DIMM はシステムで使用可能になりません。

- `> show /System/Memory/DIMMs`
- `> show /System/Memory/DIMMs/DIMM_n`。ここでは、*n* は 8 - 15 までの任意の数値です
- `> show /SP/powermgmt/powerconf/memory`
- `> show /SP/powermgmt/powerconf/memory/MB_P1_D0`

Oracle ILOM Web インタフェースでは、「System Information」->「Summary」画面と「System Information」->「Memory」画面には、シングルプロセッサシステムでサポートされる DIMM の最大数が 8 のときに、サポートされる DIMM の最大数が 16 と誤って表示されます。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- シングルプロセッサシステム
- Oracle ILOM 3.1 および 3.2.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

なし。

Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムによるブート時に DHCP リースを取得できない

16014346

問題:

自動ネゴシエーションプロセスの所要時間が 5 秒を超える構成では、次のメッセージが出てブートスクリプトが失敗することがあります。

```
ethX:failed.No link present.Check cable?
```

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux が実行されている Red Hat Enterprise Linux 6.4
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux が実行されている Red Hat Enterprise Linux 6.5
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

ethtool ethX コマンドを使用してリンクの存在を確認できるときでもこのエラーメッセージが表示される場合は、LINKDELAY=5 in/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-ethX の設定を試行します。

注記 - リンク時間は最大 30 秒かかることがあります。それに応じて LINKDELAY 値を調整します。

仮想機能 (VF) デバイスドライバがゲストでアクティブになっているときに、物理機能 (PF) デバイスドライバを削除したあとで、サーバーがリブートすることがあります。

また、NetworkManager を使用してインタフェースを構成することもでき、この場合は設定タイムアウトが回避されます。NetworkManager を使用した構成手順については、オペレーティングシステムのディストリビューションに付属のドキュメントを参照してください。

PXE または Linux ISO イメージを使ってオペレーティングシステムをインストールしたあと、システムが、インストールの実行に使用されたネットワークポートへの IP アドレスの割り当てに失敗する可能性がある

15944904

問題:

PXE (Preboot eXecution Environment) または Linux ISO イメージを使ってオペレーティングシステムをインストールしたあと、オペレーティングシステムにはじめてログインする際に、ホストがネットワークインタフェースポート (NET 0-3) への IP アドレスの割り当てに失敗する可能性があります。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

/etc/sysconfig/network-scripts/ ディレクトリに格納されている ifcfg-ethX ファイルに LINKDELAY=10 という行を追加します。

任意のオペレーティングシステムツールまたはユーティリティーを使用して UEFI ブート変数を管理 (作成、変更、または削除) すると、オペレーティングシステムの起動に必要なブート変数が失われる可能性がある

15818528

問題:

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) モードでのオペレーティングシステムのインストール中に、オペレーティングシステムインストーラが、ブートするオペレーティングシステムを選択するための BIOS メニューで使用される UEFI ブート変数を作成します。オペレーティングシステムインストーラによって作成されるブート変数が失われるのを回避するために、これらのブート変数の管理 (作成、変更、または削除) にはどのオペレーティングシステムツールまたはユーティリティーも使用するべきではありません。ブート変数が失われると、ユーザーがオペレーティングシステムをブートできなくなります。

影響を受けるソフトウェア:

- サポートされているすべての UEFI 対応オペレーティングシステム
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

UEFI ブート変数が失われた場合は、新しい UEFI ブート変数を作成するためにオペレーティングシステムを再インストールします。

UEFI BIOS ブートモードでの Emulex HBA の実行時に、「Add Boot Device」コマンドを使用するとシステムがハングアップする

18272567

問題:

BIOS 設定ユーティリティーのメニューを使用して「UEFI Driver Control」->「Oracle Sun Storage 16Gb Fibre Channel LP」->「Add Boot Device」にアクセスすると、システムがハングアップします。

注記 - この問題は、UEFI BIOS ブートモードで実行されている Emulex ホストバスアダプタ (HBA) でのみ発生します。Emulex HBA をレガシー BIOS ブートモードで実行している場合、この問題は発生しません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics, Emulex (7101687 および 7101688)
- Sun Storage 16 Gb FC Short Wave Optics, Emulex (7101685 および 7101686)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

BIOS 設定ユーティリティのメニューの使用時に、最初にコマンド「UEFI Driver Control」->「Oracle Sun Storage 16Gb Fibre Channel LP」->「Scan for Fibre Devices」を入力します。

サーバーのホストのリブート中にサービスプロセッサ (SP) をリブートすると、BIOS がハングアップすることがある

16346073

問題:

ホストのリブート中にサービスプロセッサ (SP) をリブートしようとする、サーバーの BIOS がハングアップすることがあります。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

サーバーの SP とホストは同時にリブートしないでください。

Oracle System Assistant の未解決の問題

Microsoft Windows Server で仮想 Ethernet デバイスが「インストールされていません」と報告される

15765750、17971455

問題:

ユーザーが Windows オペレーティングシステムのインストール時に Oracle Hardware Management Pack をインストールしなかった場合、仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないことがデバイスマネージャーによって報告されます。

影響を受けるソフトウェア:

- Windows Server 2008 SP2
- Windows Server 2008 R2 SP1
- Windows Server 2012 および 2012 R2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

- このドライバを入手するには、Oracle System Assistant (デフォルト) の追加ツールとして入手可能な Oracle Hardware Management Pack をインストールします。
- このデバイスを無効にして、Windows デバイスマネージャーに表示されないようにするには、`ilomconfig disable interconnect` コマンドを使用します。Oracle Hardware Management Pack がインストールされていない場合、そのインストールを行わないと、`ilomconfig CLI` ツールを入手できません。あるいは、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) の Web インタフェースを使ってこのデバイスを無効にすることもできます。

Windows ダウンロードの解凍時に、「パスが長すぎます」エラーが発生することがある

15758199 (以前の CR 7116803)

問題:

My Oracle Support (MOS) からダウンロードした Windows パッケージを Windows Server 2008/2008 R2 のデフォルト圧縮ユーティリティを使用して解凍する際、パスが長すぎることを示すエラーが発生することがあります。パスの長さは Windows オペレーティングシステムによって決められます。

ドライブ文字、コロン、バックスラッシュ、バックスラッシュで区切られた名前要素、および末尾の NULL 文字を含む最大パスは、260 文字と定義されています。パッケージを解凍するディレクトリレベル、またはパッケージの解凍に使用するツールによっては、最大パス長を超える場合があります。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

サードパーティー製の圧縮ユーティリティを使用します。サードパーティー製のユーティリティの中には、Windows のデフォルト圧縮ユーティリティとは異なり、より長い最大パス長を使用できるものがあります。

Oracle System Assistant では、admin 役割 (a) 特権を持つユーザーのみが、Oracle ILOM サービスプロセッサファームウェアを更新できる

15783011 (以前の CR 7158471)

問題:

Oracle System Assistant を使用して Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP) ファームウェアを更新すると、ログインプロンプトが表示されます。ファームウェアの更新を実行するには、管理者、または高度な (auro) 役割特権を持つユーザーとしてログインする必要があります。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

これは不具合ではありません。これは、正常な動作です。

Oracle System Assistant を使って Oracle ILOM サービスプロセッサファームウェアを更新する方法に関する手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

Oracle System Assistant を使用して SLES 11 OS 補助付きインストールを実行すると、パスワードとネットワークプロンプトが表示される場合がある

15783347 (以前の CR 7158820)

Oracle System Assistant を使用して、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 をインストールすると、root パスワードプロンプトが表示される場合があります。インストールボリュームを作成した方法 (Oracle System Assistant または LSI WebBIOS のいずれか) によって、パスワードプロンプトが表示されるかどうかが決まります。Oracle System Assistant (RAID Configuration タスク) を使用してインストールボリュームを作成した場合は、パスワードプロンプトは表示されません。LSI WebBIOS を使用してインストールボリュームを作成した場合、パスワードとネットワークプロンプトが表示されます。

影響を受けるソフトウェア:

- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 および SP3
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

パスワードプロンプトが表示されたら、次のパスワードを入力してください。**changeme**

注記 - 追加情報については、Oracle System Assistant のヘルプを参照してください。

複数の 1.2T バイトの HDD または 4T バイトの HDD を更新しようとする、Oracle System Assistant によってエラーが生成される

18944217、19659654

問題:

Oracle System Assistant の「Update Firmware」タスクを使用して、複数の 1.2T バイトまたは 4T バイトのハードディスクドライブ (HDD) を更新しようとする、エラーメッセージにデバイスの名前および状態「ERROR: Firmware download failed for component」が表示されます。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- 1.2T バイトの HDD
- 4T バイトの HDD
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

エラーメッセージにかかわらず、ディスクは更新されています。このメッセージは無視してかまいません。

Windows 用の Oracle Hardware Management Agent は、Oracle System Assistant を使用してインストールしたあと自動的に起動されない

19224214

問題:

Oracle System Assistant を使用して、Windows 2008 R2 SP1 または Windows 2012 R2 用 Oracle Hardware Management Agent をインストールし、「スタートアップの種類」を「自動」に設定すると、オペレーティングシステム (OS) のロード後にエージェントが自動的に起動しません。

影響を受けるソフトウェア:

- Windows 2008 R2 SP1
- Windows 2012 R2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

OS のロード後に Oracle Hardware Management Agent が自動的に起動できるようにするには、エージェントの「スタートアップの種類」を「自動 (遅延開始)」に設定します。「スタートアップの種類」を変更するには、次の手順を実行します。

1. Windows で、「コントロール パネル」に移動します。
2. 「管理ツール」を選択します。
3. 「サービス」を選択します。
4. 「サービス」メニューで、「Oracle Hardware Management Agent」を選択します。
5. 「Application Information のプロパティ」ダイアログボックスで、「スタートアップの種類」ドロップダウンリストから「自動 (遅延開始)」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

SLES 11 SP3、Oracle VM 3.3.1、または Oracle Linux 6.x 用の Oracle Hardware Management Agent (hwmgmt) は、Oracle System Assistant を使用してインストールしたあと自動的に起動されない

19390355

問題:

Oracle System Assistant を使用して、SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3、Oracle VM 3.3.1、または Oracle Linux 6.x 用 Oracle Hardware Management Agent (hwmgmt) をインストールすると、オペレーティングシステム (OS) のロード後に hwmgmt が自動的に起動しません。

影響を受けるソフトウェア:

- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP3
- Oracle VM 3.3.1
- Oracle Linux 6.x
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

OS のロード後に hwmgmt が自動的に起動するように構成するには、root ユーザーとしてホストにログインしたあと、次のコマンドを発行します。

```
# service hwmgmt start
```

```
chkconfig hwmgmt on
```

Oracle Solaris オペレーティングシステムの未解決の問題

システムのブート中、コンソールに警告メッセージが表示されることがある

15777292 (以前の CR 7151581)

問題:

システムのブート時に「WARNING: npe1: no ranges property」がコンソールに表示されることがあります。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Solaris 10 1/13 および 11.1
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

このメッセージは無視してかまいません。

Oracle Solaris 11 プリインストールを使用すると、初回ブート時に 5 分の遅延が発生することがあります

なし

問題:

Oracle Solaris 11 プリインストールオプションを使用する顧客が、初回ブート時に 5 分の遅延を経験することがあります。遅延の間、システムは `ilomconfig-interconnect` サービスを構成しています。これは最初のブート時にだけ発生し、その後の再起動では通常どおりにブートします。

システムコンソールからシステムの最初のブートをモニタリングしているお客様は、ブート中にシステムがこの段階に達し、約 5 分間一時停止することを発見し、次の警告メッセージが表示されます。

SunOS Release 5.11 Version 11.0 64-bit

Copyright (c) 1983, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

WARNING: npe1: no ranges property

バグ ID 15777292 に記載されている「WARNING: npe1: no ranges property」メッセージは別個の問題であり、この問題はそれと無関係であることに留意してください。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Solaris 11.1 および 11.2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

`ilomconfig-interconnect` サービスの構成が完了するのを待ちます。

Sun Storage 16 Gb FC PCIe ユニバーサル HBA、Emulex カードと Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、Emulex トランシーバを使って Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステム (SRU 適用済み) の PXE インストールを行おうとすると、インストールが失敗する

16734488

問題:

Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、Emulex カードと Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、Emulex トランシーバを使って Oracle Solaris 11.1 (Support Repository Update [SRU] 適用済み) を PXE (Preboot eXecution Environment) でインストールすることはできません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、Emulex (7101683/7101684)
- Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、Emulex (7101687/7101688)
- Oracle Solaris 11.1 および 11.2 (SRU 適用済み)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

なし。

2.7 GHz、12 コア、130W のプロセッサが搭載されたサーバーで FMA 2 HA 機能を使用するには、インストール済みの Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムを SRU 11 でアップグレードする必要がある

17243186

問題:

サーバーに 2.7 GHz、12 コア、130W のプロセッサが含まれていて、障害管理アーキテクチャー (FMA) の 2 ホームエージェント (HA) 機能を使用する必要がある場合には、インストール済みの Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムを使用する前に、そのオペレーティングシステムをサポートリポジトリアップデート (SRU) 11 でアップグレードする必要があります。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- 2.7 GHz、12 コア、130W のプロセッサが搭載されたサーバー
- インストール済みの Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステム
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

なし。

Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムの電源が切断しない

16816951

問題:

Gnome 電源マネージャー (GPM) デスクトップパッケージを含む Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムでは、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) の Web インタフェースやコマンド行インタフェース (CLI) を使って電源を切断できません。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Solaris 11.1 および 11.2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

注記 - この回避方法は、Oracle Solaris 11.1 でのみ使用してください。Oracle Solaris 11.2 で使用できる回避方法はありません。

GNOME 電源マネージャー (GPM) サービスを冗長オプションで実行します。

1. `/usr/share/dbus-1/services/gnome-power-manager.service` で、`Exec=/usr/bin/gnome-power-manager --verbose` と変更します
2. GNOME パネルのメニューリストから「システム」->「設定」->「スタートアップアプリケーション」を選択します。
3. 「電源マネージャー」->「編集」を選択し、コマンドを `gnome-power-manager --verbose` に変更します。

Linux オペレーティングシステムおよび仮想マシンの未解決の問題

VMware ESXi 5.0 Update 2 仮想マシンソフトウェアでオンボードのネットワークインストールコントローラ (NIC) を使用している場合、ixgbe ドライバをインストールするか、互換性のあるネットワークインタフェースカードを取り付けないかぎり、ネットワーク接続がサポートされない

なし

問題:

Sun Server X4-2L で使用されている 10 ギガビット Ethernet (10GbE) コントローラ (X540) に必要なドライバは、VMware ESXi 5.0 Update 2 の一般提供リリースでは使用できません。

影響を受けるソフトウェア:

- VMware ESXi 5.0 Update 2 および Update 3
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

注記 - この問題は VMware ESXi 5.1 Update 1 または 5.5 には影響しません。

回避方法:

次のいずれかのタスクを実行します。

- 必要なドライバを ESXi 5.0 Update 2 インストール ISO イメージに追加します。
- 標準のダウンロード ESXi 5.0 Update 2 ISO イメージと互換性のある PCIe ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) カードをサーバーに取り付けます。

前述のタスクの実行方法については、『Sun Server X4-2L VMware ESXi インストールガイド』の「ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成」を参照してください。

オペレーティングシステムがブートして、mpt2sas ドライバをロードすると、dmesg にエラーが表示されることがある

15824191 (以前の CR 7205850)

問題:

オペレーティングシステムがブートして、mpt2sas ドライバを初期化すると、いくつかの AER (アプリケーションエラー報告) エラーが dmesg に表示されることがあります。dmesg には、Linux システムメッセージバッファの内容が表示されます。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle VM 3.2
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 および SP3
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

なし。これらのエラーは害がないため、無視してかまいません。

26 基のストレージドライブを備えたサーバー上でインストール済みの Oracle VM 3.2 ソフトウェアを使用すると、Oracle VM ソフトウェアでパニックが発生し、エラーメッセージが表示される可能性がある

17162275

問題:

26 基ストレージドライブ (前面 24 基、背面 2 基) 構成のサーバーでは、インストール済みの Oracle VM ソフトウェアでパニックが発生し、次のメッセージが表示される可能性があります。

```
mount: could not find filesystem '/dev/root'
```

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- 26 基ストレージドライブ構成のすべてのサーバー

- Oracle VM 3.2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

この問題を修正するには、次の手順を実行します。

- Oracle VM ソフトウェアをリセットします。
- GRUB (ブートローダー) のロード時に「`vmlinux...`」を含む行を編集し、「`sync_console`」パラメータを削除します。
- Oracle VM が正常にブートされたあと、「`/boot/grub/grub.conf`」ファイルを編集してブートセクションから「`sync_console`」という文字列をすべて削除します。

Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA FCoE カードが取り付けられていて、そのオプション ROM が UEFI BIOS モードで有効になっている場合、オペレーティングシステムがブートしない

16721610

問題:

Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA (ホストバスアダプタ) FCoE (Fibre Channel over Ethernet) カードが取り付けられていて、そのオプション ROM が UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS モードで有効になっている場合、システムは、GRUB メニューにブートし、システムカーネルのロードを開始したあと、Linux オペレーティングシステムのロードに失敗します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、QLogic
- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、Emulex
- Oracle Linux 6.3 および 6.4
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 および SP3
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1

回避方法:

1. UEFI BIOS モードでシステムをブートします。
2. システム BIOS から、Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA カードのオプション ROM を無効にします。
3. 変更内容を保存し、システム BIOS を終了します。
4. Linux オペレーティングシステムをインストールします。

電力制限が設定された状態で Oracle Linux 5.9 または 6.4 OS がブートされたあと、電力制限を撤廃するコマンドが発行されても、プロセッサの速度が低いままになる

16728705/17181067

問題:

OS ブートまたはサーバー電源再投入の完了後、Oracle Linux 5.9 または 6.4 オペレーティングシステム (OS) が電力制限を撤廃するための `_pss` および `_ppc` コマンドの実行に失敗します。その結果、プロセッサの最高速度での実行が失敗します。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Linux 5.9 および 6.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

1. 変更する CPU ID を取得します。入力します。`# cat /proc/cpuinfo | grep processor`
2. サポートされている最大の CPU 周波数を取得します。入力します。`# cat /sys/devices/system/cpu/cpu<N>/cpufreq/cpuinfo_max_freq`
ここで、`<N>` は手順 1 から変更される CPU ID です。
3. 各 CPU ID の `scaling_max_freq` が手順 2 で取得した CPU の最大サポート周波数より小さいことを確認します。入力します。`# cat /sys/devices/system/cpu/cpu<N>/cpufreq/scaling_max_freq`
4. 各 CPU ID (手順 3 で表示された値が手順 2 に比べて低い) の新しいスケーリング最大周波数をカーネルに伝えます。入力します。`# echo $max_frequency > /sys/devices/system/cpu/cpu<N>/cpufreq/scaling_max_freq`
ここで、`$max_frequency` は、手順 2 で示す特定された最大周波数です。
5. 新しいスケーリング最大周波数を検証します。入力します。`# cat /sys/devices/system/cpu/cpu0/cpufreq/cpuinfo/scaling_max_freq`

Oracle Linux 6.3 または 6.4 を iSCSI ターゲット HDD にインストールしようとする、インストールが失敗する

15807672

問題:

Oracle Linux 6.3 または 6.4 オペレーティングシステムのインストール準備を行う際に UEFI BIOS ブートモードを選択したあと、OS を iSCSI ターゲットハードディスクドライブ (HDD) にインストールしようすると、インストールが失敗します。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Linux 6.3 および 6.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Oracle Linux 6.3 または 6.4 OS のブートモードをレガシー BIOS ブートモードに設定したあと、インストールを行います。

UEFI BIOS ブートモードで Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA QLogic カードのオプション ROM を有効にすると、SLES 11 ISO イメージのブートが失敗する

16817765

問題:

Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA QLogic カードがサーバーに取り付けられ、オプション ROM が有効化され、UEFI BIOS ブートモードが選択されると、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 ISO イメージのブートが失敗します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、QLogic (7101674)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

BIOS 設定で、Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、QLogic が装着されている PCIe スロットの opROM オプションを無効にします。

Intel Xeon E5-2600 V2 シリーズのプロセッサが搭載された Oracle Linux 6.4 が稼働する x86 サーバー上で、プロセッサが特定の C 状態に遷移しない

16870068

問題:

Intel Xeon E5-2600 V2 シリーズのプロセッサが搭載された Oracle Linux 6.4 が稼働する x86 サーバー上では、プロセッサがプロセッサ C 状態 C3 と C6 に遷移しません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Intel Xeon E5-2600 V2 シリーズのプロセッサ
- Oracle Linux 6.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

/boot/grub/menu.lst のカーネル行の末尾にカーネルパラメータ「intel_idle.max_cstate=0」を追加し、サーバーをリブートします。

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux が実行されている RHEL 6.4 OS または Oracle Linux 6.4 OS 上の BurninTest 3.1 で、カーネルパニックが発生する

17047864

問題:

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4 または Oracle Linux 6.4 オペレーティングシステム上で PassMark BurninTest Linux V3.1 を実行したあとでシステムをリブートまたはシャットダウンすると、シャットダウン手順の最後の段階でカーネルがパニックを起こす可能性があります。このカーネルパニックはシステムの動作に影響を及ぼしません。エラーメッセージを無視してサーバーの電源再投入や切断を行なってもかまいません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Intel の 100G バイトおよび 400G バイトの SSD
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux が実行されている Oracle Linux 6.4
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux が実行されている Oracle Linux 6.5 および 7.0
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux が実行されている Red Hat Enterprise Linux 6.4
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux が実行されている Red Hat Enterprise Linux 6.5 および 7.0
- BurnInTest3.1
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

この構成のシステムでは PassMark BurninTest Linux V2.1 を使用します。

Oracle Linux 6.5 ソフトウェアのインストール後に、PCIExpress カード用 InfiniBand ホストチャンネルアダプタで障害が発生することがある

17899109

問題:

Oracle Linux 6.5 のインストール後に、PCIExpress カード用 InfiniBand ホストチャンネルアダプタが動作を停止することがあります。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- PCIExpress Gen 3 用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャンネルアダプタ (7104073 および 7104074)
- Oracle Linux 6.5
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

次の手順を実行します。

1. リモート Direct Memory Access (RDMA) パッケージを yum またはオペレーティングシステムのインストールディスクからインストールします。
2. `/etc/rdma/rdma.conf` ファイルで「`MLX4_LOAD=yes`」を追加するかアンマスクします。

Oracle Linux 5 および RHEL 5 と Flash Accelerator PCIe F80 カードで GRUB がブートに失敗する

18271022

問題:

Flash Accelerator PCIe F80 カードでの Oracle Linux 5.x または RHEL 5.x の実行時に、GRUB がブートに失敗します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Flash Accelerator PCIe F80 カード: 800GB、eMLC (7107091 および 7107092)
- Oracle Linux 5.x
- Red Hat Enterprise Linux 5.x

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

このバグの回避方法については、66 ページの「[BugDB 18271022 の回避方法](#)」を参照してください。

RHEL 6.5 受信ボックス OFED パッケージの使用時に RDMA の通信が失敗することがある

17933299

問題:

RHEL 6.5 受信ボックス OpenFabrics Enterprise Distribution (OFED) パッケージの使用時に、RHEL 6.5 でリモート Direct Memory Access (RDMA) の実行が失敗することがあります。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- PCIExpress Gen 3 用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャンネルアダプタ (7104073 および 7104074)
- Red Hat Enterprise Linux 6.5
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

なし。

Mellanox OFED パッケージを更新します。更新パッケージをダウンロードするには、http://www.mellanox.com/page/products_dyn?product_family=26 に移動して、ページをスクロールダウンし、「MLNX_OFED 2.X」をクリックして、MLNX_OFED_LINUX-2.1-1.0.0-rhe16.5-x86_64.iso をダウンロードします。

Mellanox OFED 更新パッケージをインストールするには、次の手順を実行します。

1. ISO イメージをマウントして、`./mlnxofedinstall --without-fw-update` コマンドを実行します。注 - PCIExpress Gen 3 カード用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャンネルアダプタでインストールによってファームウェアがフラッシュしないようにするには、`--without-fw-update` 修飾子を使用する必要があります。そうしない場合、インストールは失敗します。
2. RDMA パッケージを yum または RHEL 6.5 インストール ISO から再インストールします。`/etc/rdma/rdma.conf` ファイルを変更して、`RDS_LOAD=no` を `RDS_LOAD=yes` に変更して、ファイルを保存します
3. RDMA サービスを起動/再起動します。

注記 - 「rds-tools」を使用して RDMA のパフォーマンスを管理またはテストする場合は、「rds-tools」が最小バージョンである 2.0.7 に更新されるようにしてください。

非 RAID ボリュームが存在する場合、VMware ESXi 5.x は Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA を使用して構成されているシステムにインストールできない

16373075

問題:

非 RAID ボリュームが存在する場合、ESXi 5.0/5.1/5.5 およびそれ以降の更新は Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA を使用した構成にインストールできません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵)
- VMware ESXi 5.0、5.1、および 5.5、およびそれ以降の更新
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA を使用して構成されているシステムに ESXi をインストールする場合は、RAID ボリュームのみを使用してください。

Sun Storage 10 Gb FCoE HBA カードが取り付けられていて、そのオプション ROM が UEFI BIOS モードで有効になっている場合、UEK Release 3 を備えた Oracle Linux 7.0 がブートしない

19521738

問題:

Sun Storage 10 Gb FCoE (Fibre Channel over Ethernet) HBA (ホストバスアダプタ) カードが取り付けられていて、そのオプション ROM が UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS モードで有効になっている場合、システムは、GRUB メニューにブートし、システムカーネルのロードを開始したあと、Oracle Linux 7.0 オペレーティングシステムのロードに失敗します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics, QLogic (7101677 および 7101678)
- Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 を備えた Oracle Linux 7.0
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

1. UEFI BIOS モードでシステムをブートします。

2. システム BIOS から、Sun Storage 10 Gb FCoE HBA カードのオプション ROM を無効にします。
3. 変更内容を保存し、システム BIOS を終了します。

オペレーティングシステムのインストール時に、インストール先ディスクを複数回パーティション分割した場合、Oracle Linux 7.0 のインストールで不明なエラーメッセージが報告される

19140366

問題:

オペレーティングシステムのインストール時に、インストール先ディスクを複数回パーティション分割した場合、Oracle Linux 7.0 のインストールで不明なエラーメッセージが報告されます。このエラーが原因でインストールが失敗し、ユーザーは、インストールプロセスを終了するか、バグを報告するかを選択できません。

次のエラーメッセージが報告されます。

```
An unknown error has occurred This program has encountered an unknown error.You may report the bug below or quit the program.
```

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Oracle Linux 7.0
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Oracle Linux 7.0 オペレーティングシステムのインストール時には、インストール先ディスクを複数回パーティション分割しないでください。

Oracle System Assistant の使用時に、Linux オペレーティングシステムがインストールされないことがある。

19274609、19232280、および 19044611

問題:

システム BIOS を UEFI モードに設定して Oracle System Assistant を使用すると、Oracle Linux、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) などの Linux オペレーティングシステムがインストールされないことがあります。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Oracle Linux 6.3, 6.4, 6.5, および 7.0
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3
- Red Hat Enterprise Linux 6.4, 6.5, および 7.0
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2, 1.3, 1.3.1

回避方法:

システム BIOS を出荷時のデフォルトにリセットするには、次の手順を実行します。

1. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Management」>「BIOS」>「Settings」>「Reset to Defaults」>「Factory」とクリックして、「Save」をクリックします。
3. システムをリブートして、BIOS をロードします。
4. ブートモードを UEFI に変更します。

Oracle System Assistant を使用して Linux オペレーティングシステムをインストールできるようになりました。

RHEL 7.0 または Oracle Linux 7.0 のインストール後、Oracle ILOM Fault Manager に「dmarxd_poisoned_data_from_dp_stat」メッセージが表示される

19293318

問題:

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.0 または Oracle Linux 7.0 をインストールしたあとで、サーバーでウォームリセットを実行すると、Oracle ILOM Fault Manager によって次のエラーが報告されます。

```
ereport.io.intel.iilo.dmarxd_poisoned_data_from_dp_stat
```

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.0
- Oracle Linux 7.0
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2, 1.3, 1.3.1

回避方法:

RHEL 7.0 または Oracle Linux 7.0 のインストール前に、サーバーの BIOS 設定ユーティリティで Intel I/O Acceleration Technology (IOAT) を無効にします。IOAT を無効にするには、次の手順を実行します。

1. BIOS 設定ユーティリティを起動します。手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー 管理ガイド』を参照してください。
2. BIOS 設定ユーティリティで、「IO」メニューに移動します。
3. 「IOAT」を選択します。
4. 「Intel I/OAT」を選択して、「Disabled」を選択します。
5. F10 を押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。

▼ BugDB 18271022 の回避方法

BugDB 18271022 を回避するには、次の手順を実行します。

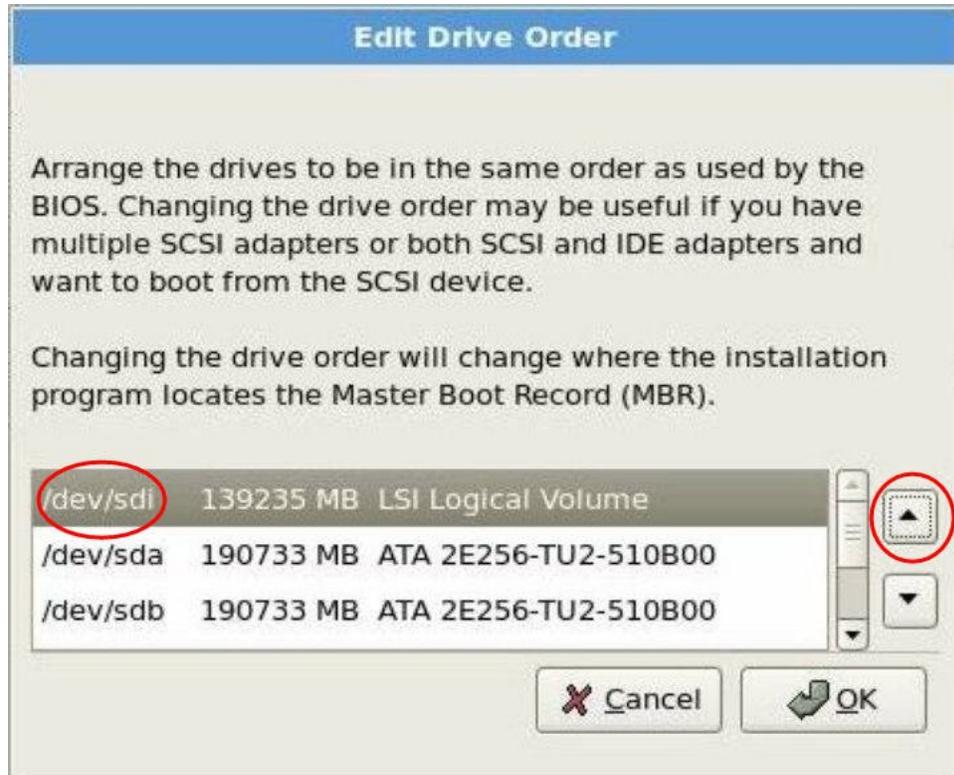
1. **GRUB ブートローダーの画面が表示されるまで、Oracle Linux 5 または RHEL 5 のインストールを進めます。**



2. **GRUB ブートローダーの画面で、「Configure advanced boot loader options」のボックスにチェックマークを付けて、「Next」をクリックします。**
「Install Boot Loader record on」画面が表示されます。



3. 画面の上部にある「Install Boot Loader record on」のオプションで、「Change Drive Order」をクリックします。
「Edit Drive Order」ダイアログボックスが表示されます。



4. 「Edit Drive Order」ダイアログボックスで、目的のターゲット HDD をドロップダウンリストから選択します。上矢印をクリックしてターゲット HDD をリストの上部に移動して、「OK」をクリックします。

更新された「Install Boot Loader record on」画面が表示されます。



5. 更新された「Install Boot Loader record on」画面で、「Install boot loader record on」オプションが、選択したターゲット HDD の MBR に設定されていることを確認します。
6. 「Next」をクリックして、インストールを終了します。

Windows オペレーティングシステムの未解決の問題

Windows 2012 のインストール時に致命的な WHEA エラーが発生する

15890512

問題:

プリインストール版の Oracle Linux 6.x オペレーティングシステムを含むハードディスクドライブ (HDD) に Windows 2012 をインストールすると、Windows ハードウェアエラーアーキテクチャー (WHEA) エラーが発生します。

影響を受けるソフトウェア:

- インストール済みの Oracle Linux 6.x
- Windows 2012
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Windows 2012 をインストールする前にシステムの BIOS 設定を出荷時のデフォルトにリセットします。

Oracle System Assistant を使用して Windows 2012 R2 をインストールすると、fwupdate コマンドで QLogic HBA カードが一覧表示されない

19224464

問題:

Oracle System Assistant を使用して Windows 2012 R2 をインストールすると、サーバーにインストールされている QLogic HBA カードが `fwupdate list controller` コマンドで一覧表示されません。Oracle System Assistant で QLogic (qauc1i) ユーティリティがインストールされないために、この問題が発生します。

影響を受けるソフトウェア:

- Windows 2012 R2
- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、QLogic (7101673 および 7101674)
- Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、QLogic (7101677 および 7101678)
- StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート、QLogic (SG-PCIE2FC-QF8-Z および SG-XPCIE2FC-QF8-N)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

QLogic (qauc1i) ユーティリティは、Oracle System Assistant を使用して手動でインストールする必要があります。

ドキュメントの未解決の問題

このセクションでは、ドキュメントの未解決の問題について説明します。

- 71 ページの「物理メディアのリクエストがサポートされなくなった」
- 71 ページの「X4-2L ドキュメントセットに古い URL が出現する」
- 72 ページの「『Sun Server X4-2L サービスマニュアル』の更新内容」
- 72 ページの「『Sun Server X4-2L VMware ESXi インストールガイド』の更新内容」
- 73 ページの「『Sun Server X4-2L Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』の更新内容」
- 73 ページの「『Sun Server X4-2L Oracle VM インストールガイド』の更新内容」
- 73 ページの「『Sun Server X4-2L Linux オペレーティングシステムインストールガイド』の更新内容」
- 73 ページの「翻訳されたドキュメントで省略したタイトルが使用される」

物理メディアのリクエストがサポートされなくなった

ファームウェアおよびソフトウェアの更新は、My Oracle Support Web サイトからダウンロードできます。これまで、手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできなかった場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) を Oracle に対して発行することで最新のソフトウェアリリースパッケージを入手できました。PMR を発行するための推奨の方法は、My Oracle Support Web サイトを使用することでした。しかし、Oracle はファームウェアとソフトウェアの更新のための無料の物理メディアを今後提供しません。さらに、ソフトウェアアプリケーションまたはオペレーティングシステムの物理メディアパックは配信のために提供されなくなりました。Oracle Software Delivery Cloud をアプリケーションおよび OS のダウンロードに使用できます。サーバードキュメントのファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手に関する章における PMR の発行手順は、適用されなくなりました。14 ページの「OS またはソフトウェアアプリケーションのダウンロード」も参照してください。

X4-2L ドキュメントセットに古い URL が出現する

次の Sun Server X4-2L ドキュメントには古いまたは壊れた URL がいくつか含まれています。それらの URL および正しい URL を次に示します。

E38145 -- Sun Server X4-2L の HTML ドキュメントコレクション

- 壊れた URL: https://access.redhat.com/site/documentation/Red_Hat_Enterprise_Linux/?locale=en-US
- 修正された URL: https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/

E38149 -- Sun Server X4-2L セキュリティーガイド

- 壊れた URL: <http://docs.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs/>
- 修正された URL: <https://access.redhat.com/documentation/en/red-hat-enterprise-linux/>

『Sun Server X4-2L サービスマニュアル』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2L サービスマニュアル』には、次の修正が必要です。

- TLI は、配電盤 (PDB)、マザーボード (MB)、およびディスクバックプレーン (DBP) のコンポーネントの FRUID (現場交換可能ユニット識別子) に保存されます。この記述は正しくありません。TLI は実際には、電源 0 (PSU 0)、MB、および DBP に格納されています。
- BIOS 設定ユーティリティの「IO」メニューの「PCI Subsystem Settings」オプションは、デフォルトで無効になっています。この記述は正しくありません。この BIOS オプションのデフォルト設定は「enabled」です。このオプションを有効にした場合の影響の詳細は、20 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 では、BIOS 設定ユーティリティの「IO」メニューで「PCI Subsystem Settings」オプションを有効にすることはサポートされない」を参照してください。
- 「電源装置を取り付ける」手順に次のノートを追加する必要があります。

注記 - 電源 0 の交換後に、FRU トップレベルインジケータ (TLI) データを新しい電源に伝播するために、Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) をリセットする必要があります。SP のリセット手順については、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>) を参照してください。電源 1 には FRU TLI データは格納されていないため、交換後に SP をリセットする必要はありません。

『Sun Server X4-2L サービスマニュアル』には、サーバーにプロセッサを取り付けるための正しくない手順と例が示されています。「プロセッサを取り付ける」の下にある手順 16b の手順と例を次に置き換えてください。

b. 手順 16.a で確認した障害をクリアするには、次のコマンドを入力します。

```
> set /SYS/MB/P0 clear_fault_action=true
```

次に例を示します。

```
> set /SYS/MB/P0 clear_fault_action=true
Are you sure you want to clear /SYS/MB/P0 (y/n)? y
Set 'clear_fault_action' to 'true'
```

『Sun Server X4-2L VMware ESXi インストールガイド』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2L VMware ESXi インストールガイド』では、VMware ESXi ソフトウェアのサポートされているバージョンが正しく一覧表示されていません。正しいバージョンは、5.0 Update 2 と Update 3、5.1 Update 1 と Update 2、5.5、および 5.5 Update 1 です。

『Sun Server X4-2L Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2L Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』には、Oracle Solaris オペレーティングシステムのサポートされているバージョンが正しく一覧表示されていません。正しいバージョンは、10 1/13、11.1、および 11.2 です。

『Sun Server X4-2L Oracle VM インストールガイド』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2L Oracle VM インストールガイド』では、Oracle VM ソフトウェアのサポートされているバージョンが正しく一覧表示されていません。正しいバージョンは、3.2 および 3.3 です。

『Sun Server X4-2L Linux オペレーティングシステムインストールガイド』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2L Linux オペレーティングシステムインストールガイド』には、Oracle Linux および Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのサポートされているバージョンが正しく一覧表示されていません。正しいバージョンは次のとおりです。

- Oracle Linux 5.9、5.10、6.3、6.4、6.5、および 7.0。
- Red Hat Enterprise Linux 5.9、5.10、6.4、6.5、および 7.0。

翻訳されたドキュメントで省略したタイトルが使用される

PDF ドキュメントの翻訳済みバージョンでは、省略したドキュメントタイトルが相互参照に使用されています。次の表に、完全なドキュメントタイトルに対応する省略したタイトルを示します。

表 5 完全なドキュメントタイトル

省略したドキュメントタイトル	完全なドキュメントタイトル
設置	Sun Server X4-2L 設置ガイド
Oracle Solaris インストール	Sun Server X4-2L Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド
Oracle VM インストール	Sun Server X4-2L Oracle VM インストールガイド
Linux インストール	Sun Server X4-2L Linux オペレーティングシステムインストールガイド

省略したドキュメントタイトル	完全なドキュメントタイトル
Windows インストール	<i>Sun Server X4-2L Windows オペレーティングシステムインストールガイド</i>
VMware ESXi インストール	<i>Sun Server X4-2L VMware ESXi インストールガイド</i>
サービス	<i>Sun Server X4-2L サービスマニュアル</i>